

第3次 与那原町社会福祉協議会 地域福祉活動計画

基本理念

誰もが安心して快適に暮らせるまち
次世代につなげる心豊かなまち

令和6年度～令和11年度



令和6年3月

社会福祉法人 与那原町社会福祉協議会

ごあいさつ



本会では、これまでも第1次（平成25年度）、第2次（平成30年度）と地域福祉活動計画を策定し、関係機関・団体と協働して地域福祉活動を推進しておりましたが、このたび、令和6年度から令和11年度までの6年間を計画期間とする「第3次 与那原町社会福祉協議会 地域福祉活動計画」を策定しました。今回の活動計画でも、これまでの基本理念「誰もが安心して快適に暮らせるまち 次世代につなげる心豊かなまち」を継承するとともに、基本理念の実現に向けて改めて4つの基本目標を掲げ、社会変化や地域課題に対応できるような内容となっております。

近年の地域社会は、少子高齢化社会の進展や家族機能の低下、地域のつながり・支え合い機能の希薄化が進行し、地域福祉活動の必要性・重要性は一段と高まっております。また、昨今の新型コロナウイルスのパンデミックによる経済活動の停滞は、これまでに感じることのない「生活水準」や「経済面」での格差が表面化され、新たな生活・地域課題への対応が求められており、地域福祉活動を推進する中核的な団体として、改めて本会が果たすべき役割の重要性と期待を感じております。

こうした地域の期待に応えられるよう、本会も組織体制を強化するとともに積極的に地域に足を運び、地域づくりのコーディネーター役としての社協機能を強化していきたいと考えており、「誰もが安心して快適に暮らせるまち 次世代につなげる心豊かなまち」の実現に向けて取り組んでまいります。

結びに、本計画策定にあたり、ご尽力を賜りました策定委員会委員及びご意見をお寄せいただきました関係者の皆さまに対し、心から感謝申しあげ、ごあいさつといたします。

令和6年3月

目次

第1章 計画の策定にあたって

第1節	計画策定の趣旨	1
第2節	計画の位置付け	2
第3節	計画の期間	3
第4節	計画策定の方法	4
第5節	計画策定の新たな視点	4

第2章 地域福祉を取り巻く概況

第1節	人口・世帯等の推移	5
第2節	高齢者の状況	6
第3節	障がい者（児）の状況	7
第4節	子どもに関する状況	8
第5節	生活保護・生活福祉資金貸付等の状況	9
第6節	その他	10

第3章 計画の基本的な考え方

第1節	基本理念	11
第2節	基本目標	11
第3節	活動計画の体系図	12

第4章 社会福祉協議会の取組み

第1節	基本目標1 福祉の情報が届く仕組みづくり	13
第2節	基本目標2 連携した支援ができる体制づくり	14
第3節	基本目標3 身近でふれあい・見守り・つながるまちづくり	15
第4節	基本目標4 地域参加の意識づくり	16

第5章 地域福祉活動計画の推進体制 17

第6章 計画の進行管理・見直しについて 19

*資料編

資料1	「第3次 地域福祉活動計画」策定に向けての講演会開催要項	21
資料2	アンケート調査の概要	22
資料3	みんなで地域福祉を考える「ワークショップ」の概要等	34
資料4	策定要綱並びに策定委員会設置要綱・スケジュール	57
資料5	第3次与那原町社協地域福祉活動計画（案）策定について（諮問）	61
資料6	第3次与那原町社協地域福祉活動計画（案）策定について（答申）	62

第1章

計画の策定にあたって

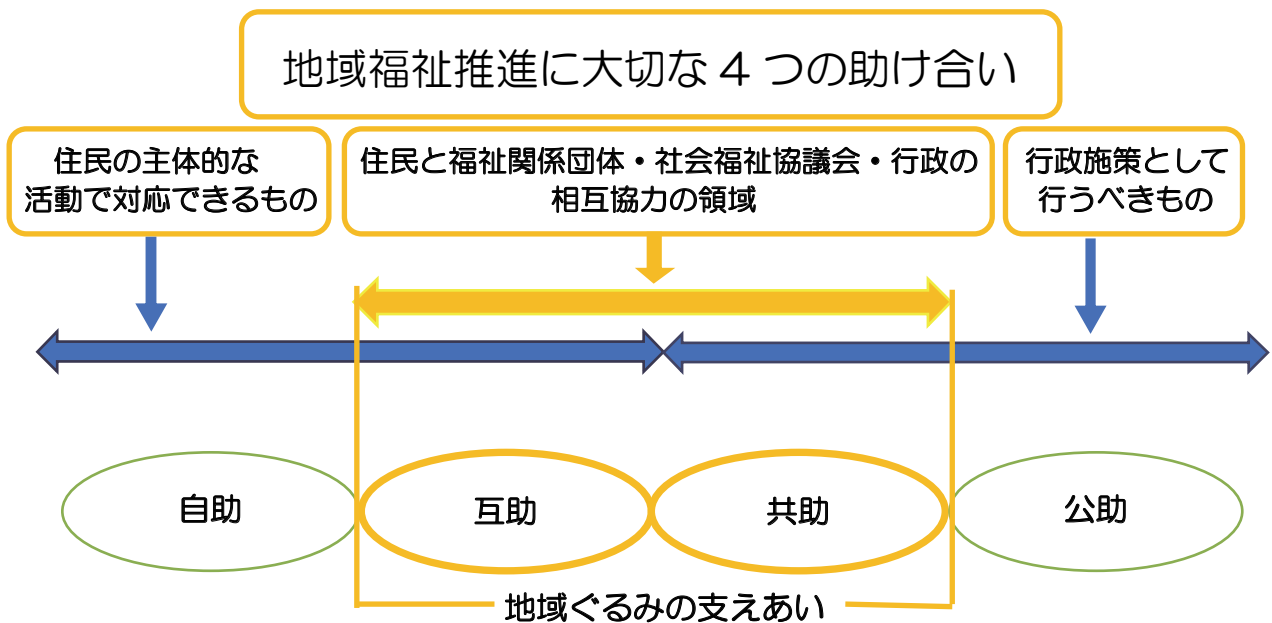


第1章 計画の策定にあたって

「地域福祉ってなあに？」「地域共生社会ってなあに？」

地域で暮らす人々が、性別や年齢、障がいの有無に関係なく、お互いに支えあい・助け合いながら、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう「みんなで築いていくこと」を地域福祉と捉えています。

また、これまでの制度や分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超え、地域の生活課題を「我が事」として、みんなが「支える人」であり、「支えられる人」として、つながることが地域共生社会と考えます。



第1節 計画策定の趣旨

1 計画策定の背景

少子高齢化の進行や家族形態の変化、また、新型コロナウイルス感染や物価高騰など社会状況が大きく変化しており、さらに、人々の価値観や生活スタイルも多様化する中で、地域や隣近所との人間関係が希薄になり、助け合い力の機能が低くなっています。

こうした中、地域においては認知症や児童虐待、ひきこもり、生活不安、孤独死、自殺等の深刻な社会問題や国内での災害時における住民相互の助け合いの必要性が再認識されており、地域における「互助・共助」の推進は安心して暮らすことができるまちづくりに欠かすことができない要素となっております。

地域が抱える複雑な課題は、行政や特定の関係者だけで解決できるものではなく、住民・地域・団体・企業・関係機関・行政が連携していくことで、誰もが安心して暮らせるように、課題解決に向けた取り組みを行っていく必要があります。

本会では、平成25年3月に第1次計画にあたる与那原町社協地域福祉活動計画を策定し、

平成30年3月に第2次地域福祉活動度計画を策定してきた中で、「誰もが安心して快適に暮らせるまち、次世代につなげる心豊かなまち」を基本理念に掲げ、地域住民が主体の地域福祉を推進してまいりました。

そこで、これまでの地域福祉活動計画の成果と課題を踏まえ、多種多様化する福祉ニーズや変化する社会状況を考慮したうえで、第3次地域福祉活動計画を策定することとします。

第2節 計画の位置付け

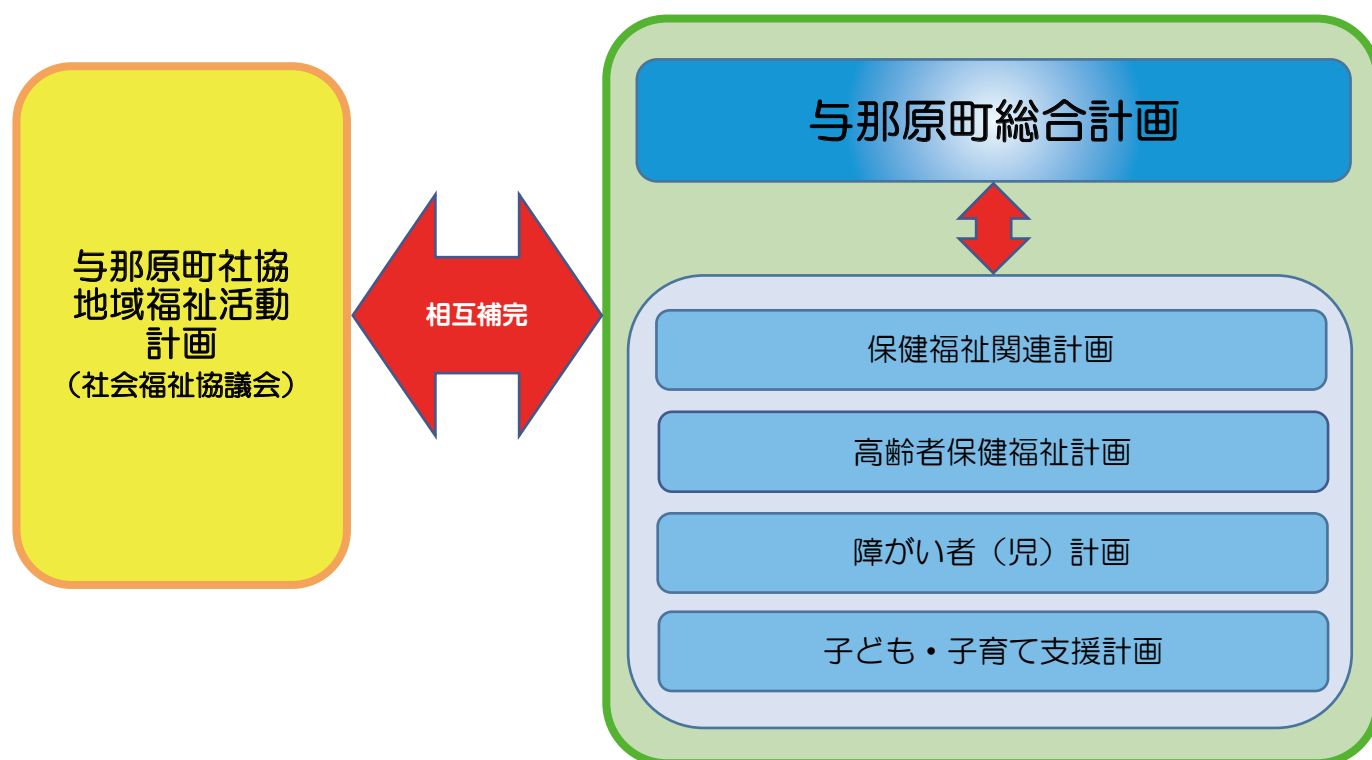
1 第3次与那原町社協地域福祉活動計画の位置付け

第3次与那原町社協地域福祉活動計画は、与那原町社会福祉協議会が呼びかけて、地域住民や民生委員児童委員、ボランティア等の地域福祉活動を行う人、社会福祉を目的とする事業（福祉サービス）を経営する人（団体）や社会福祉に関する活動を行う人（団体）が協力して策定する、地域福祉の推進を目的とした「民間の活動・行動計画」です。

2 与那原町行政計画の位置づけ

本計画の策定にあたっては、町の最上位計画である「与那原町総合計画」や保健福祉関連計画等から関連事業等の取り組みを把握し、整合性を図っていきます。

* 関連計画との整合性の図

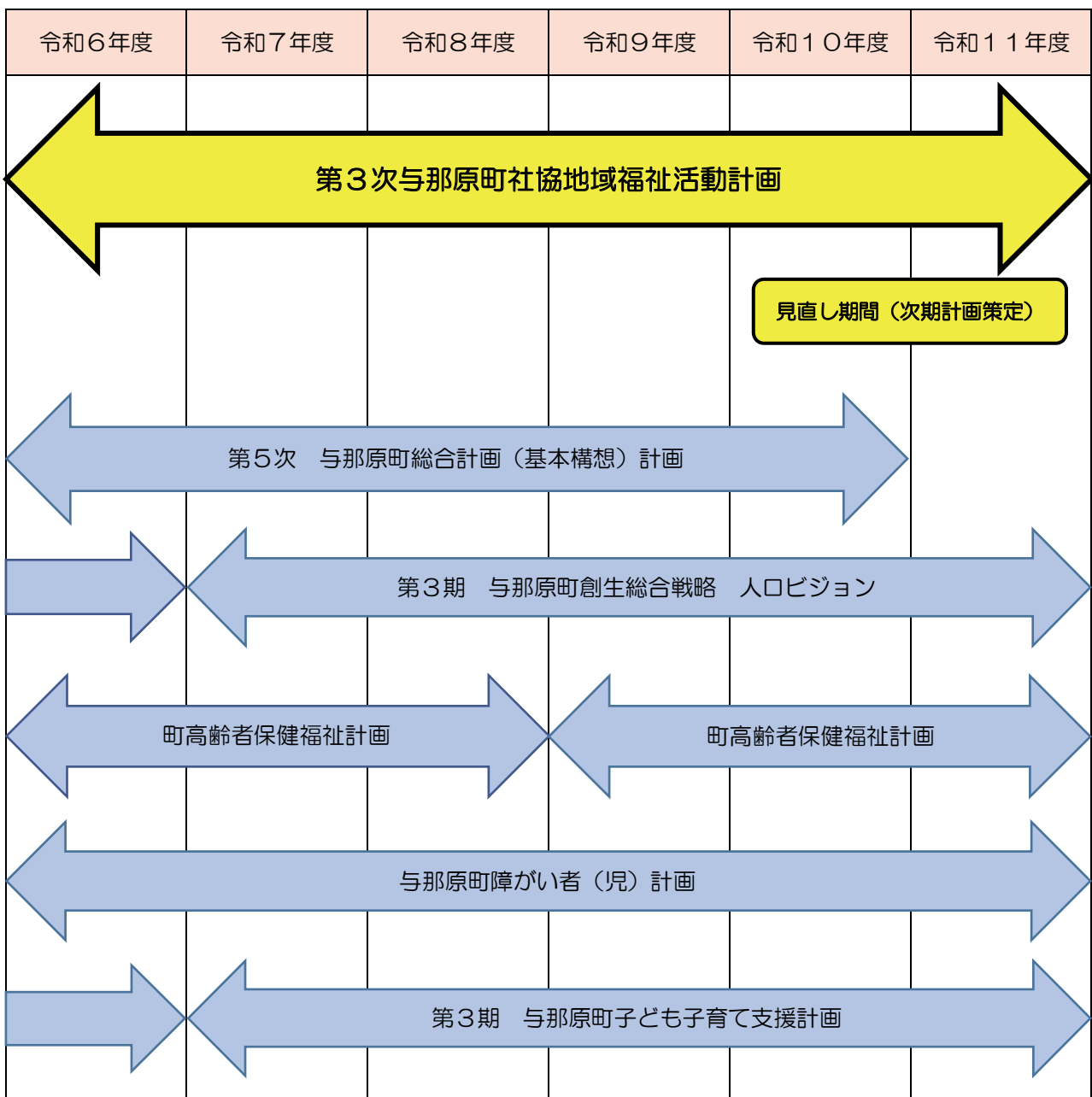


第3節 計画の期間

第3次与那原町社協地域福祉活動計画の期間は、令和6年度（2024年度）から令和11年度（2029年度）までの6年間とし、町の総合計画や人口ビジョン、福祉分野の各計画との相互補完を図りながら定めます。

ただし、社会・経済情勢の急激な変化に対応できるよう、必要に応じて見直しを行うものとします。

また、地域福祉をより具体的に推進していくために進捗管理・評価を行い地域の実情に応じた計画の見直しが必要であることを踏まえ、令和10年度（2028年度）以降より次期計画の策定を行います。



第4節 計画策定の方法

本計画の策定にあたっては、地域の住民や当事者の生活福祉ニーズを把握するため、地域関係者（区長会、民児協、赤十字奉仕団、町老連、町障協、町母子寡婦福祉会、ボランティア等）や福祉施設・事業所へのアンケートやワークショップを実施し、地域課題やまちづくりへの意見を反映し、地域住民や関係団体、行政関係者で構成する策定委員会が作成します。

第5節 計画策定の新たな視点（SDGs）

「SDGs：持続可能な開発目標」は、令和12年（2030年）までに諸課題の解決を目指し、すべての人々にとってよりよい未来を築くため17のゴールと169のターゲットから構成された国際目標です。

SDGsでは「誰ひとり取り残さない」という理念を掲げており、これは本会がこれまで地域福祉活動計画で掲げてきた理念とも通じ、「地域共生社会」の実現に向けても重要となります。

本計画策定においても、この理念や目標につながる取組みを視野に活動できるよう努めてまいります。



第2章

地域福祉を取り巻く概況



第2章 地域福祉を取り巻く概況

第1節 人口・世帯等の推移

1. 総人口と年齢区別人口の将来推移

令和11年までの総人口は、ほぼ横ばい状態であると予想されています。

しかし、年少人口（15歳未満）は徐々に減少しており、高齢者人口は徐々に増加が見込まれます。

町総合計画統計によると、令和15年には本町の高齢化率は25%を超えると予想されています。

総人口と年齢区別人口の将来推移

各年9月末時点

	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
人 口	20,007	19,978	19,997	20,001	20,006	20,006	20,000	19,980
高齢者人口	4,233	4,345	4,455	4,516	4,606	4,692	4,761	4,815
前期	2,368	2,371	2,360	2,314	2,301	2,282	2,245	2,224
後期	1,865	1,974	2,095	2,202	2,305	2,410	2,516	2,591
*高齢化率	21.2%	21.7%	22.3%	22.6%	23.0%	23.5%	23.8%	24.1%
15～64歳	12,073	11,994	11,965	11,970	11,960	11,905	11,894	11,864
15歳未満	3,701	3,639	3,577	3,515	3,440	3,409	3,345	3,301

*高齢化率：7%以上【高齢化社会】、14%以上【高齢社会】、21%以上【超高齢社会】

資料：町福祉課

2. 行政区及び自治会別の人口構造と自治会加入率状況について

令和6年1月末現在の行政区及び自治会別人口は、総人口が最も多い地区は「東浜」4,403人となっており、次いで「与原」2,879人、「板良敷」2,596人となっています。

また、65歳以上人口が高い行政区は「浜田」35.4%となっており、次いで「県営与那原団地」32.9%、「江口」29.8%の順で、「東浜」以外は21%越えの「超高齢社会」となっているのが現状です。

自治会加入率は、県営与那原団地が100%の加入率となっており、その他の行政区で高いのは「港」で68.4%、次に「中島」60.7%、「与原」57.8%、「江口」57.2%、「上与那原」56.7%、「大見武」56.2%の順となり、加入率50%を超えるのはこの7地区で、そのほか6地区は50%以下となっています。

アンケートやワークショップでも「地域とのつながりの希薄さ」を課題に感じているとの意見が多くありましたが、自治会加入率状況からも課題であることがわかります。

行政区及び自治会別に人口構造と自治会加入率

令和6年1月末現在

	人口	世帯	0～14歳		15～64歳		65歳以上		自治会加入率
当添（県営与那原第2団地含む）	1,614	724	256	15.9%	987	61.2%	371	23.0%	36.3%
板良敷	2,596	1,135	497	19.1%	1,552	59.8%	547	21.1%	36.5%
港	1,009	459	148	14.7%	604	59.9%	257	25.5%	68.4%
江口（町営住宅含む）	1,988	923	307	15.4%	1,089	54.8%	592	29.8%	57.2%
中島	491	240	70	14.3%	294	59.9%	127	25.9%	60.7%
新島	713	357	119	16.7%	400	56.1%	194	27.2%	36.6%
森下	364	181	61	16.8%	195	53.6%	108	29.7%	36.1%
浜田	819	415	98	12.0%	431	52.6%	290	35.4%	43.5%
与原	2,879	1,288	505	17.5%	1,728	60.0%	646	22.4%	57.8%
大見武（須利原団地含む）	963	452	152	15.8%	538	55.9%	273	28.3%	56.2%
上与那原	1,750	749	253	14.5%	1,020	58.3%	477	27.3%	56.7%
県営与那原団地	255	115	49	19.2%	122	47.8%	84	32.9%	100%
東浜	4,403	1,778	1,086	24.7%	2,992	68.0%	325	7.4%	21.0%
【参考】日の出園	70	70	0	0.0%	0	0.0%	70	100%	—
合計	19,914	8,886	3,601	18.1%	11,952	60.0%	4,361	21.9%	

*自治会加入率は、令和5年4月1日現在

資料：町住民課

第2節 高齢者の状況

1. 老人クラブ加入状況

与那原町では、すべての行政区単位で老人クラブが結成されており、ゲートボールや登校時の子どもの見守り、公民館でのサークル活動など活発に活動しています。

しかし、老人クラブの会員数と加入率は年々減少しており、今後、地域とのつながりを推進するためにも行政区をはじめ、老人会・子ども会など地域組織の活性化は重要な課題となります。

老人クラブ加入の推移

各年3月末時点

	令和3年	令和4年	令和5年
単位老人クラブ数	12地区	12地区	12地区
会員数	562人	528人	512人
60歳以上人口加入率	10.7%	9.9%	9.4%

資料：与那原町老人クラブ連合会

2. 介護保険の状況

(1) 要介護認定者の推移（第1号被保険者）

令和3年から令和5年の認定率は年々減少していますが、認定者数の数は増加しており、今後も高齢者の増加に伴い認定者数も増加していくものと思われます。

要介護認定者の推移（第1号被保険者）		各年10月時点		
	令和3年	令和4年	令和5年	
認定者数	752人	747人	753人	
第1号被保険者数	4,186人	4,227人	4,312人	
認定率	18.0%	17.7%	17.5%	
【参考】県平均認定率	18.1%	17.8%	17.6%	

資料：県介護保険広域連合「介護保険事業状況報告」

(2) 介護保険サービス受給者の推移（第1号被保険者）

介護保険サービス利用者のサービスでは、居宅サービスが462人と最も多くなっており、次に施設入所56人、地域密着型サービスが40人となっています。

介護保険サービス受給者の推移（第1号被保険者）		各年10月時点		
	令和3年	令和4年	令和5年	
居宅	456人（80.0%）	476人（80.5%）	462人（82.8%）	
地域密着型	40人（7.0%）	45人（7.6%）	40人（7.2%）	
施設	74人（13.0%）	70人（11.8%）	56人（10.0%）	
総数	570人（100%）	591人（100%）	558人（100%）	

資料：県介護保険広域連合「介護保険事業状況報告」

第3節 障がい者（児）の状況

1. 障害者手帳所持者の推移

令和3年から令和5年の障害者手帳所持者は、身体障害者（児）手帳及び精神障害者（児）保健福祉手帳については減少傾向ですが、療育手帳【知的障害者（児）】の所持者は年々増加傾向にあります。

障害者手帳所持者の推移		各年8月時点		
	令和3年	令和4年	令和5年	
身体障害手帳者（児）	621人 594人（27人）	611人 586人（25人）	609人 585人（24人）	
療育手帳者（児）	189人 131人（58人）	202人 130人（72人）	218人 132人（86人）	
精神障害者保健福祉手帳者（児）	296人 282人（14人）	310人 290人（20人）	283人 260人（23人）	

資料：町福祉課

第4節 子どもに関する状況

1. ひとり親世帯数と児童扶養手当の受給状況

令和3年から令和5年のひとり親世帯数・手当受給・ひとり親出現率は、ともに令和5年は減少しており、また、平成25年と平成30年の参考値ではあるが、南部福祉事務所管内と比較しても出現率は低くなっています。

ひとり親世帯数と児童扶養手当の受給状況

各年7月末時点

	令和3年	令和4年	令和5年
世帯数	355世帯	357世帯	340世帯
手当受給	327世帯	336世帯	316世帯
町母子寡婦福祉 会員数	72世帯	89世帯	72世帯
ひとり親出現率	4.1%	4.1%	3.8%

資料：町子育て支援課

*県青少年・子ども家庭課参考：南部福祉事務所管内出現率 平成25年：5.0%
平成30年：4.3%

2. 就学援助費の支給状況

令和3年から令和5年の就学援助支給状況は毎年400人余りで推移しており、県平均を下回っている状況です。

就学援助費の支給状況

各年2月末時点

		令和3年	令和4年	令和5年
小学校	与那原小学校	123人	117人	132人
	与那原東小学校	148人	145人	150人
与那原中学校		177人	156人	161人
合計		448人	418人	443人
支給率		20.7%	19.4%	20.8%
【参考】県平均支給率		24.0%	23.6%	—

資料：町教育委員会学校教育課

第5節 生活保護・生活福祉資金貸付等の状況

1. 生活保護世帯・人員の推移

令和2年から令和4年の生活保護世帯及び人数は年々増加しており、保護率においても増加、南部管内平均の15.8（人口千人対）より大きく上回っています

生活保護世帯・人員数の推移

各年度末現在

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
被保護世帯	354世帯	373世帯	378世帯
被保護人員	432人	447人	460人
保護率（人口千人対）	21.5	22.4	23.1
【参考】南部管内保護率	15.6	16.1	15.8
【参考】沖縄県保護率	20.0	26.4	26.7

資料：南部福祉事務所

2. 生活福祉資金・福祉金庫の状況

生活福祉資金の本則貸付については15件程で推移しています。

また、新型コロナウイルスの影響による収入減少などにより生活費が必要な方に対し、特例措置として従来の貸付要件を緩和した特例貸付については、令和2年度から4年度までに1,984件の貸付が行われましたが、令和6年2月末現在896件（50%）が償還困難との理由から償還免除となっています。

貸付においては、償還に関する相談は勿論必要なことではあるが、償還免除を行った借受け人に対しては、生活再建に向けた支援が今後、重要となります。

生活福祉資金・福祉金庫の状況

各年度末現在

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
本則貸付	11件	11件	15件
特例貸付	1,125件	739件	84件
福祉金庫	1件	2件	1件

*参考：特例貸付償還免除決定（896件 令和6年2月29日現在）

資料：社協事業報告書

第6節 その他

1. 町内の福祉関係等の社会資源状況

令和5年10月現在の町内社会福祉関連施設の状況は、高齢者を対象とする施設等が39カ所、障がい者（児）を対象とする施設等が35カ所、子どもを対象とする施設が36カ所とそれぞれほぼ同じ数の施設状況となっている。

町内の福祉関係等の社会資源状況

令和5年10月現在

高齢者施設・介護事業所	37カ所	障がい児通所支援事業所	14カ所
グループホーム（高齢者）	2カ所	就労支援事業所（A・B）	10カ所
グループホーム（障害者）	6カ所	相談支援事業所	5カ所
幼稚園・保育園（所）	18カ所	学童・保育（認可・個人）	11カ所
居場所（子ども・若者）	7カ所		

第3章

計画の基本的な考え方



第3章 計画の基本的な考え方

第1節 基本理念



【SDGs：1，3，11，17】

「この地域に住んでよかった」という安心感を持って暮らすことができ、また、私たちが抱える生活課題を私たちが解決できる地域を目指し、基本理念を『誰もが安心して快適に暮らせるまち、次世代につなげる心豊かなまち』と定めていました。

第3次計画においても、なお一層、この基本理念を意識し発信し、共有していくことにより、誰もが地域でつながり、国が提唱する「地域共生社会の実現」に向けて、今後展開される施策においても、十分意義を果たせるものと考え、1次・2次で掲げた基本理念を受け継ぐこととします。

**誰もが安心して快適に暮らせるまち
次世代につなげる心豊かなまち**

第2節 基本目標

基本理念の実現に向けた本計画の基本目標として、社会変化・新たな地域課題などに対応できるように以下の4つを設定します。

1 福祉の情報が届く仕組みづくり

福祉に関する情報を必要な方が、必要な時に提供できる体制を充実させていくことで、相談しやすい雰囲気づくりをすすめていきます。

2 連携した支援ができる体制づくり

福祉を支える組織・団体が共に協力し合っていくことで支援を必要とする人に必要な支援が提供できるよう、また組織・団体が連携した支援ができるようすすめていきます。

3 身近でふれあい・見守り・つながるまちづくり

住民同士の世代間交流を図り、顔の見える関係づくりを進め、地域の方々が手を取り合いながら、つながり助け合う地域づくりをすすめます。

4 地域参加の意識づくり

共に暮らす社会（共生社会）の実現に向けた意識を啓発するとともに、ボランティア活動の推進を図ることで、人と人のつながりを基本とした社会参加の意識づくりをすすめます。

第3節 活動計画の体系図

基本理念

誰もが安心して快適に暮らせるまち

次世代につなげる心豊かなまち

基本目標1 福祉の情報が届く仕組みづくり

- 主な内容
- ①支援の情報をわかりやすく伝える
 - ②身近に相談できる支援をすすめる
 - ③相談支援の専門性を高める

基本目標2 連携した支援ができる体制づくり

- 主な内容
- ①福祉サービスの充実を図る
 - ②連携した相談支援の推進
 - ③連携した支援体制の充実

基本目標3 身近でふれあい・見守り・つながるまちづくり

- 主な内容
- ①隣近所での身近な助け合いをすすめる
 - ②地域での組織的な支援体制を整える
 - ③災害時に備えた支援

基本目標4 地域参加の意識づくり

- 主な内容
- ①地域福祉について学ぶ機会の提供
 - ②地域住民が気軽に参加できる交流の場
 - ③参加しやすいボランティア活動

第4章

社会福祉協議会の取組み



第4章 社会福祉協議会の取組み

第1節 基本目標1 福祉の情報が届く仕組みづくり

福祉に関する支援についての情報提供や相談体制を充実させ、課題を抱えた人が相談しやすくするため、以下の内容ですすすめます。

主な内容

①支援の情報をわかりやすく伝える

支援を必要とする人が必要な情報をいつでも得られるような仕組みをつくと共に情報の入手が困難な方々への配慮を行い、わかりやすい言葉で情報提供を図ります。

【社協の取組み】

- ・ 広報活動の充実（社協会報・ホームページ・SNS*¹の活用や町広報紙・電光掲示板等での周知など）
- ・ 地域の場の活用（ふれあいサロンや各区ミニデイなど）
- ・ 地域人材との連携（民生委員児童委員や町老連などの関係団体）

*1 ソーシャルネットワーキングサービスの略で登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービス（LINE・インスタグラム等）のことで「ネット上での社会的なつながりを提供するサービス」とも言えます。

②身近に相談できる支援をすすめる

地域で相談活動に関わる方々（民生委員児童委員など）が住民の身近な相談相手になるように、また、社会福祉協議会や相談支援を行っている福祉サービス事業所等が身近な相談窓口として連携できるよう努めます。

【社協の取組み】

- | | |
|----------------------------------|--------|
| ・ 町内社会福祉法人連絡会の開催（社会福祉法人の公益的な取組み） | 3回 / 年 |
| ・ 社会福祉法人以外の小規模法人・団体のネットワークの構築 | 3回 / 年 |
| ・ 福祉総合相談（随時）や福祉相談会の実施 | 4回 / 年 |
| ・ 地域に出向いて（アウトリーチ）の相談支援や窓口等の周知 | 随時 |

③相談支援の専門性を高める

様々な方々の相談に対応できるよう、相談員の研修会への参加促進や関係機関・団体との連携を強化し、分野横断的につながる相談体制の整備を行い、個人情報に配慮した情報の共有をすすめていきます。

【社協の取組み】

- | | |
|------------------------------------|--------|
| ・ 町各課（福祉課、子育て支援課、生活環境安全課等）との連絡会の開催 | 1回 / 月 |
| ・ 各種相談研修会等への相談員、担当職員の参加 | 随時 |
| ・ 日常業務における行政、県社協、県共募並びに各市町村社協等との連携 | 随時 |

第2節 基本目標2 連携した支援ができる体制づくり

地域福祉の充実のために関係する組織や団体等が共に協力し合っていくことで、支援を必要とする方に連携して支援ができるよう、以下の内容ですすめます。

主な内容

①福祉サービスの充実を図る

制度で定められた福祉サービスや制度では対応が厳しい支援も含めて、必要とする方々に対して、適切な福祉サービスが提供できる体制を整えることで、安心して生活できる環境の充実を図ります。

【社協の取組み】

- ・権利擁護の充実
- ・フードバンク*²の実施・拡大 推進月間の設定
- ・日常生活自立支援事業や金銭管理支援事業の実施

*2 寄付を受けた食料品を貯蔵して、食料を必要としている人や団体に供与するボランティア活動。

②連携した相談支援の推進

支援の必要な人が課題を1人で抱え込むことのないよう、気持ちに寄り添い速やかに相談窓口につなげ、適切な支援ができるよう福祉分野にとどまらない、他分野を含めた包括的な相談支援をすすめます。

【社協の取組み】

- ・福祉総合相談会等の実施 随時
- ・地域の専門機関、活動団体とのネットワーク構築 随時
- ・町各課（福祉課、子育て支援課、生活環境安全課等）との連絡会の開催 1回/月

③連携した支援体制の充実

複雑多様化した福祉課題を抱える世帯等に対する速やかな支援や虐待などの早期発見・防止を含めて、近隣住民の声かけ・見守りや地域の団体・事業所等が連携を強化し課題解決に向けた支援体制の整備を行います。

【社協の取組み】

- ・地域におけるあらゆる生活課題への対応（相談、支援） 随時
- ・生活環境の整備や新たな社会資源の開発、仕組みづくり
- ・企業との地域見守り活動連携強化 6企業
- ・第2層協議体（小学校区）の開催【受託】 2回/年

第3節 基本目標3 身近でふれあい・見守り・つながるまちづくり

隣近所などでの身近な助け合いから地域での組織的な支え合いの仕組みと体制を整備していくため、以下の内容ですすめます。

主な内容

①隣近所での身近な助け合いをすすめる

気軽な声かけ・あいさつや地域活動への参加を促し、顔の見える関係を構築しふれあいを深めることができる機会の充実をすすめていきます。

【社協の取組み】

- ・ミニデイ及び地域福祉活動推進事業の取組に向けての各行政区との連携強化
- ・社協ホームページによる情報発信（ボランティアの相談・登録・斡旋など） 随時
- ・シルバー生き生きライフサポート事業【受託】

②地域での組織的な支援体制を整える

区長・自治会長をはじめ民生委員児童委員やボランティアなど地域で福祉活動を行う人や組織と連携し、情報を共有する場を持ちながら要支援世帯や地域との関わりが薄い世帯などの課題解決に向けてすすめていきます。

【社協の取組み】

- ・小地域支え合い活動事業の推進、強化
- ・地域福祉関係者連絡会 1回/年
- ・行政区単位の地域福祉懇談会の開催 各行政区1回以上
- ・企業との地域見守り活動連携強化 6企業

③災害時に備えた支援

平時からの相互の見守り活動等をとおり、配慮が必要な人の風水害や災害時の避難行動に備えた支援のあり方についての検討や地域の防災訓練等への呼びかけ・参加を促し、防災意識の向上に努めていきます。

【社協の取組み】

- ・災害時要援護者等の支援並びに体制の整備
- ・町による避難行動要支援者個別避難（支援）計画作成への協力
- ・町並びに各行政区主体の防災訓練への参加、協力
- ・県災害派遣福祉チーム「DWA T^{*3}おきなわ」への職員登録

*3 災害発生直後に一般避難所等で災害時要配慮者（高齢者や障がい者、子ども等）に対する福祉支援を行う民間の福祉専門職のことで、都道府県単位や民間の社会福祉法人等で構成されています。

第4節 基本目標4 地域参加の意識づくり

学びの機会を提供し、交流の場を充実させ、参加しやすい地域活動やボランティア活動の推進を図り、人と人のつながりを基本とした地域参加の意識づくりをしていくため、以下の内容ですすめます。

主な内容

①地域福祉について学ぶ機会の提供

児童生徒や地域住民など各年代層に応じて、地域に関することや福祉についての学びの機会や場を充実させ、また、介護や障がい、育児など対象に合わせた学びへも対応し、地域住民の理解や対象者が安心して暮らせるようすすめます。

【社協の取組み】

- ・ ボランティアセンターによる学習機会の提供 3回/年
- ・ 地域ミニデイを活用した学習会の開催 4回/年
- ・ 生活環境の整備や新たな社会資源の開発・仕組みづくり
- ・ 福祉講演会の開催 1回/2年
- ・ ボランティア活動報告会の開催 1回/年

②地域住民が気軽に参加できる交流の場

様々な地域資源を活用し、身近なところで気軽に集える場を積極的に開拓することで地域住民が気軽に参加できて、顔の見える関係性が築けるよう工夫しすすめます。

【社協の取組み】

- ・ 移動サロン等の開催 2か所
- ・ 生活環境の整備や新たな社会資源の開発・仕組みづくり
- ・ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な事業への協力
- ・ 地域資源の発掘、開拓

③参加しやすいボランティア活動

ボランティアの斡旋や身近でできる活動の紹介など、多くの住民が地域活動に参加できる機会の充実を図り、また、地域の人材育成・発掘を行い、担い手確保の支援をすすめます。

【社協の取組み】

- ・ 社協ホームページやLINEを活用したボランティアセンター活動の周知
- ・ ボランティア団体、協力校の支援
- ・ ボランティアの相談・登録・斡旋

第5章

地域福祉活動計画の推進体制



第5章 地域福祉活動計画の推進体制

地域福祉活動計画の推進体制

1 計画の周知・普及

地域福祉活動は、地域住民、福祉活動団体、ボランティア、福祉事業者など地域に関わるものが主体となり相互に協力して推進していくことが大切です。

そこで、本計画で示した取組と方向性について、社協会報やホームページ等に公表し周知を図ります。また、より普及を図るため、地域福祉懇談会などを通じて、本会の事業や活動事例などを紹介し、理解と参加・協力を求めていき、住民への周知を図り、地域における主体的な活動を促進していきます。

2 総合的な地域福祉推進体制

本計画の推進にあたり、地域住民等との協働に努め、さらに、地域に密着しながら、地域福祉を推進するために様々な取組を行なっていきます。

(1) 住民（地域住民、事業者、福祉団体、NPOなど）との協働

住民、事業者、関係機関などと連携を図り、機会があるごとに意見を聴き、共助の立場で本計画を推進します。

(2) 町との協働

社会福祉協議会は、地域に密着しながら、地域福祉を推進するために様々な事業を行なっていきます。

町が策定する「総合計画」との整合性や「各福祉保健計画」と相互補完を図りながら、本計画を推進します。

(3) 職員の推進体制

職務会や研修の場において職員の合意形成・共通理解を図ると共に効率的かつ効果的に本計画を推進するため、各行政区や関係機関・団体と協働のもと福祉コミュニティの形成や支援を行うためのコミュニティーソーシャルワーカー^{*4}等を配置し取組んでいきます。

* 4 制度のはざままで困っている方や、既存の公的な福祉サービスでは十分な対応が難しい方に対して、地域や関係機関と連携しながら、地域の多様な問題を受け止め、住民主体の地域福祉活動を推進する関係者の調整役

(4) 財源の確保

社協会員の加入促進や共同募金運動の推進などの「自主財源」をはじめ、公益資金等を財源とした「民間財源」、補助金・受託金等の「公的財源」といった多様な財源の確保・活用を図っていきます。

第6章

計画の進行管理・見直しについて

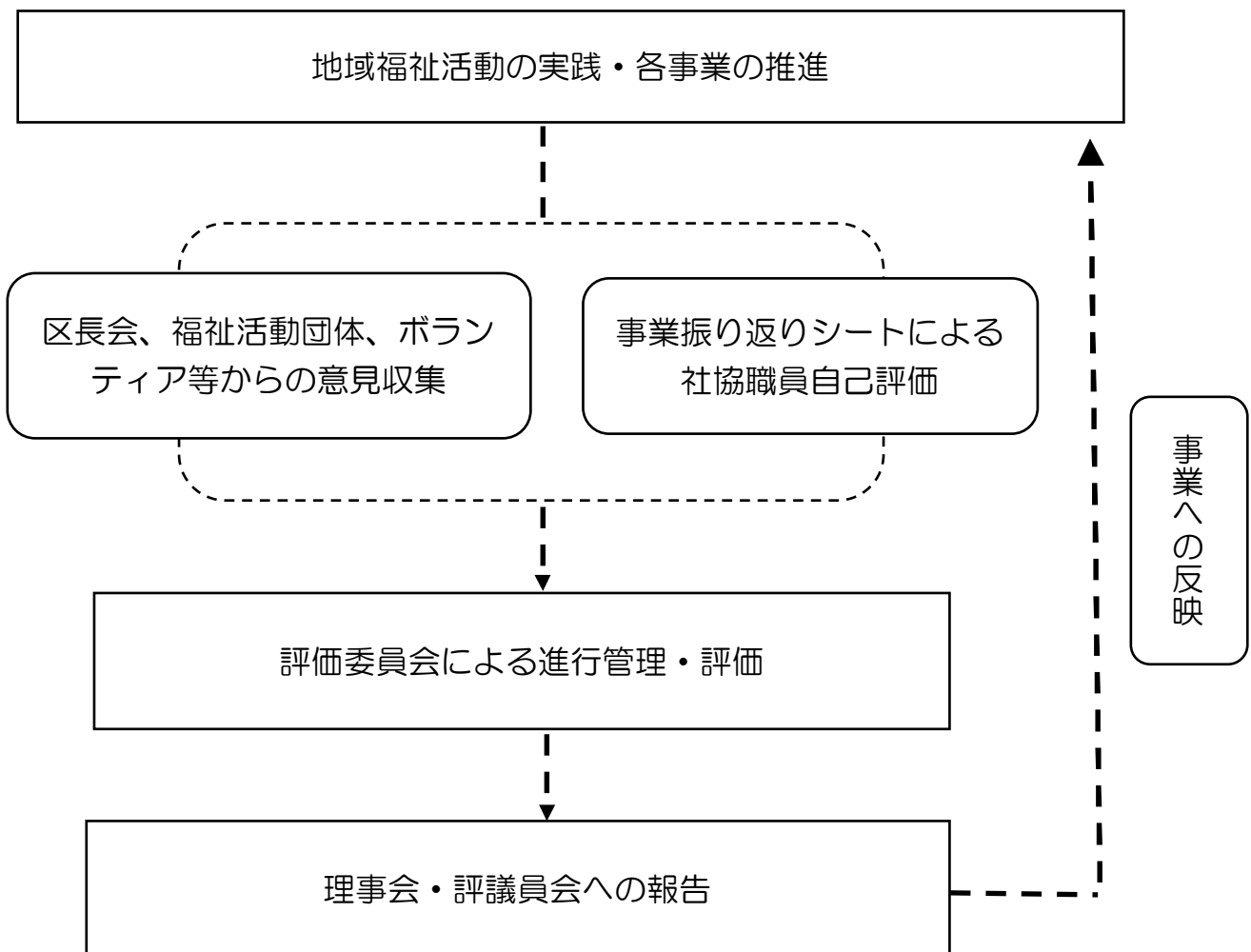


第6章 計画の進行管理・見直しについて

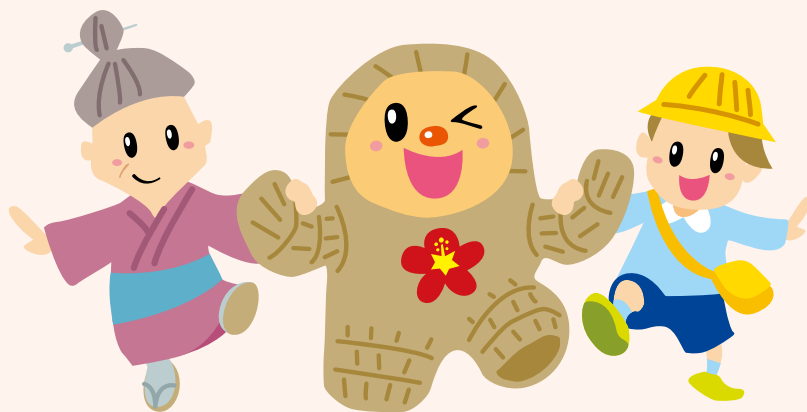
1 本計画推進の進行管理・見直しについて

「与那原町社協地域福祉活動計画評価委員会（仮称）」を設置し、地域福祉活動団体や住民等のニーズを把握（意見収集）、また、職員による事業振り返りシートによる自己評価等をもとに評価委員会で計画の進行管理と必要に応じて見直しを行い、理事会、評議員会に報告するとともに、毎年度の事業に反映します。

2 進行管理・見直しのフローチャート



資料編



*資料1

「第3次 地域福祉活動計画」策定に向けての講演会開催要項

～地域福祉活動計画と協働のまちづくり～

1. 目 的

現在、本会が進めている「第3次 地域福祉活動計画」策定を推進するにあたり住民参加を基調とした計画づくりの視点で、複雑多様化する地域福祉の課題を本会のみならず地域住民や関係団体と役割分担を図り、共に解決できるよう関係者の方を対象に「地域福祉活動計画」がどのようなものであるのかを相互理解していただくための機会として開催いたします。

2. 主 催 社会福祉法人 与那原町社会福祉協議会

3. 日 時 令和5年12月18日（月） ・ 14時～受付
・ 14時30分～開会

4. 会 場 与那原町上の森かなちホール

5. 内 容 「わが町の地域福祉活動計画づくりにむけて」

6. 講 師 伊良皆 和 弘 氏（沖縄県社会福祉協議会 地域福祉部長）

7. 参 加 者 45名

（社協理事・評議員、民生委員児童委員、赤十字奉仕団、ボランティア
関係、町老連評議員、その他関係団体・施設）

*資料2

アンケート調査の概要

1. アンケート調査の目的

与那原町社協地域福祉活動計画の基本理念である「誰もが安心して快適に暮らせるまち、次世代につなげる心豊かなまち」という住民主体の地域福祉活動を推進するため、地域住民や福祉施設・機関等のアンケートや住民参加のワークショップを実施しニーズを把握することで、第3次地域福祉活動計画の策定に反映させる。

2. アンケート調査の内容

これまでに実施したアンケートを参考に今回は、「地域・関係団体」、「福祉施設・事業所等（高齢者・障がい・児童）」へ地域活動での課題や本会との連携等に絞った調査内容で実施する。

3. 調査先

①地域・関連団体等

（区長会、町民生委員児童委員、町赤十字奉仕団、町老人クラブ連合会、町女性会、町更生保護女性会、町障がい者協会、町母子寡婦福祉会等）

②福祉施設、事業所

（高齢者関係39カ所、障がい関係35カ所、児童関係46カ所）

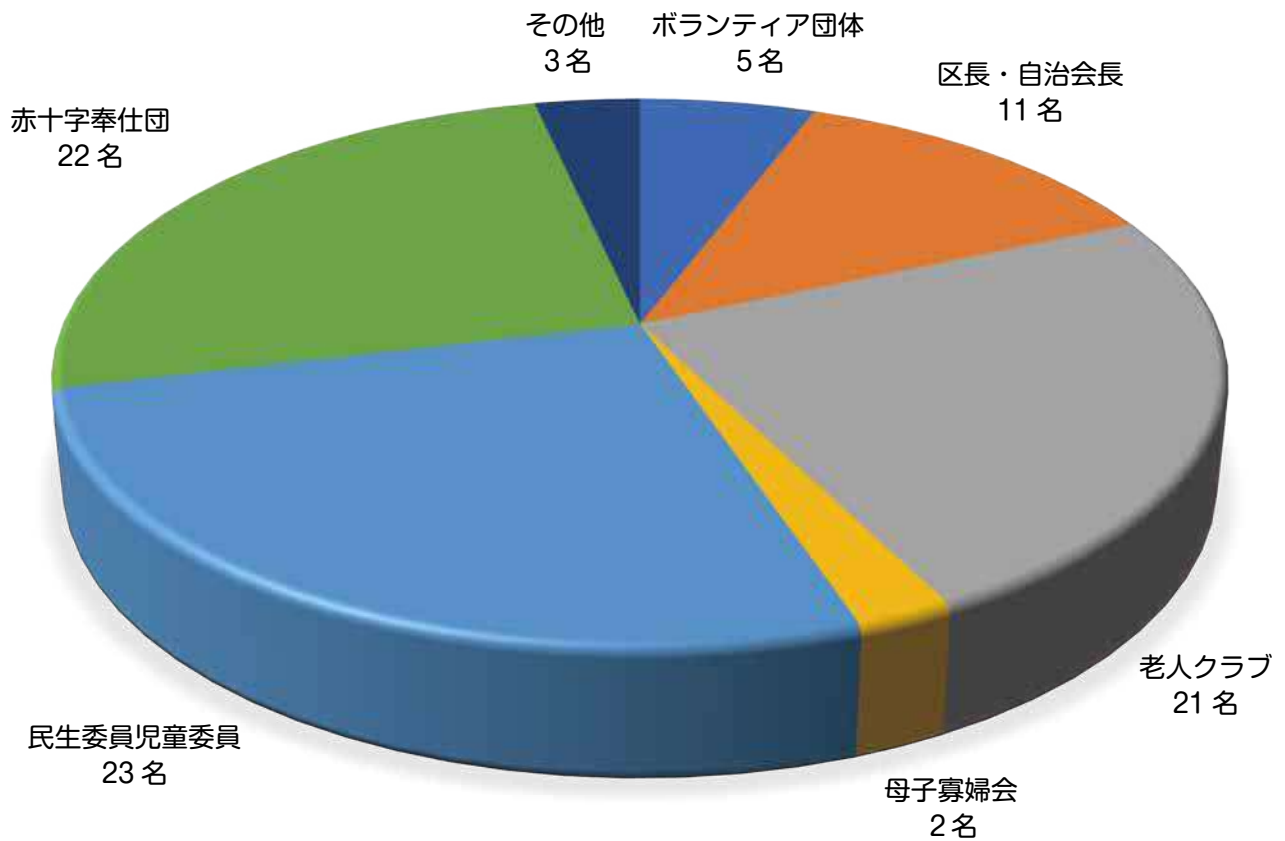
4. 調査の時期

令和5年9月～10月

5. 回収状況

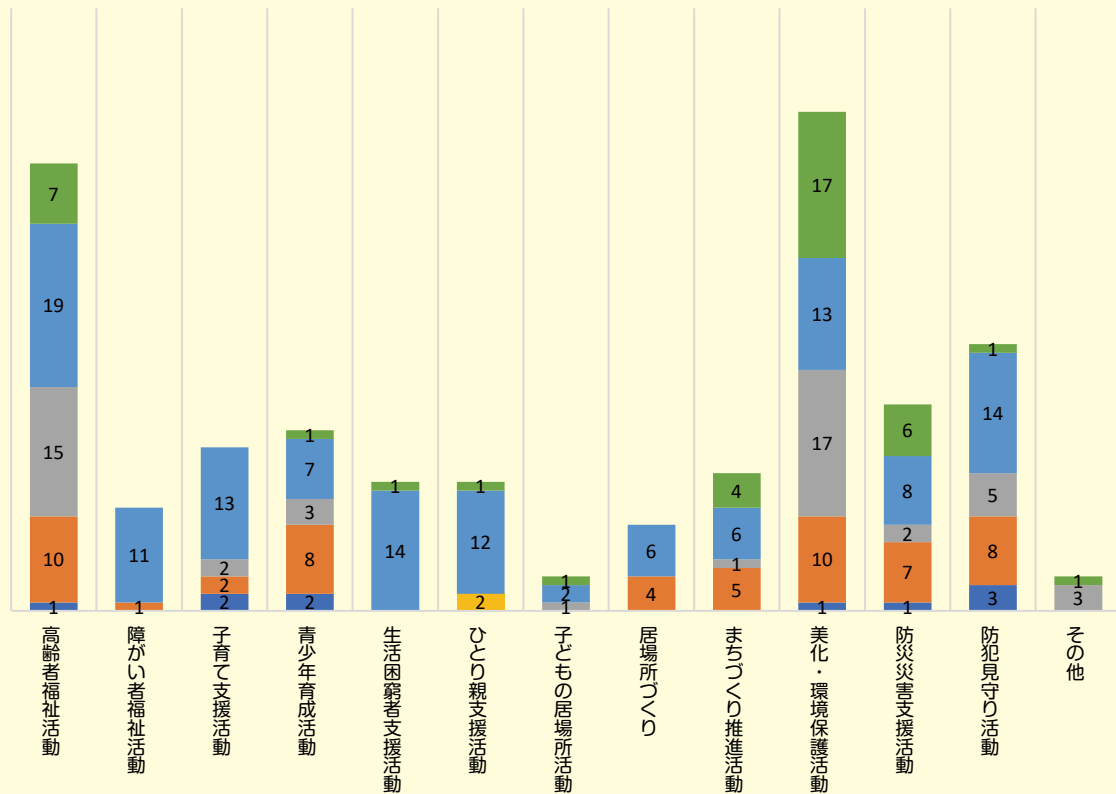
①地域・関連団体等 87件 ②福祉施設・事業所 164件

地域・関係団体アンケート結果 回答者：87名



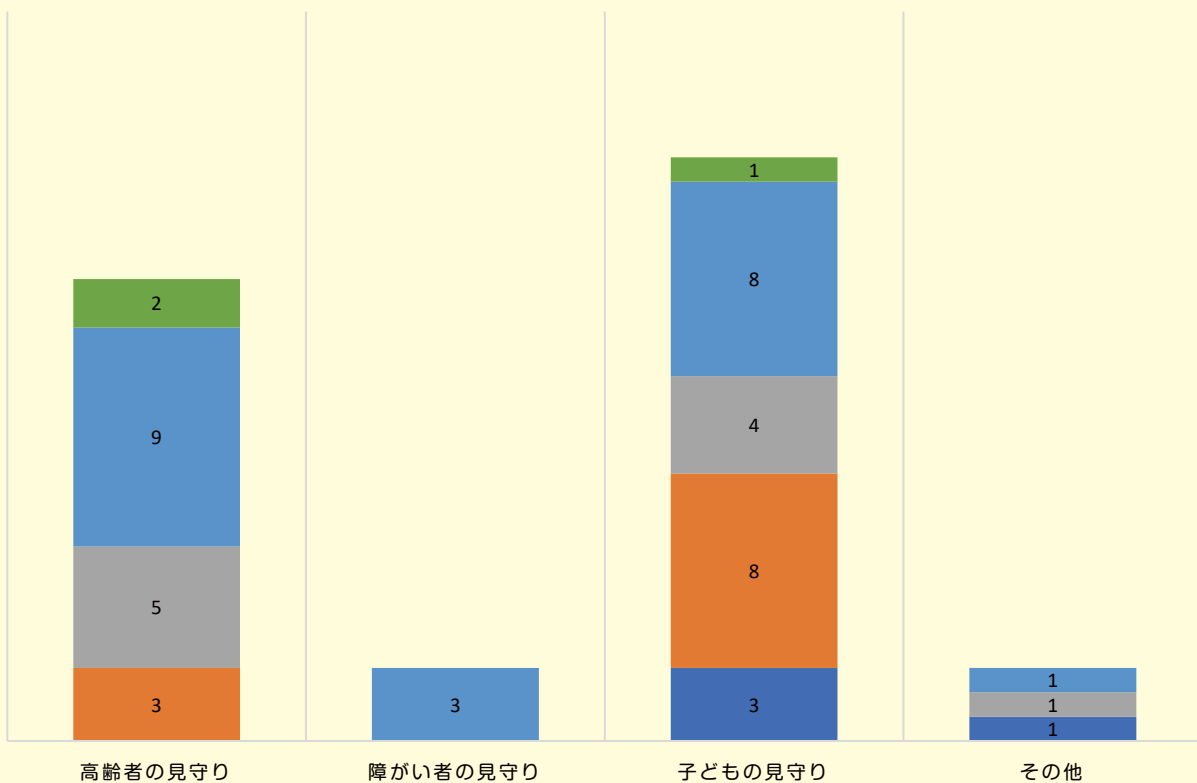
問 3. 団体の取り組んでいる活動は。

■ ボラ団体 ■ 自治会 ■ 老人クラブ ■ 母子寡婦会 ■ 民生委員児童委員 ■ 赤十字奉仕団



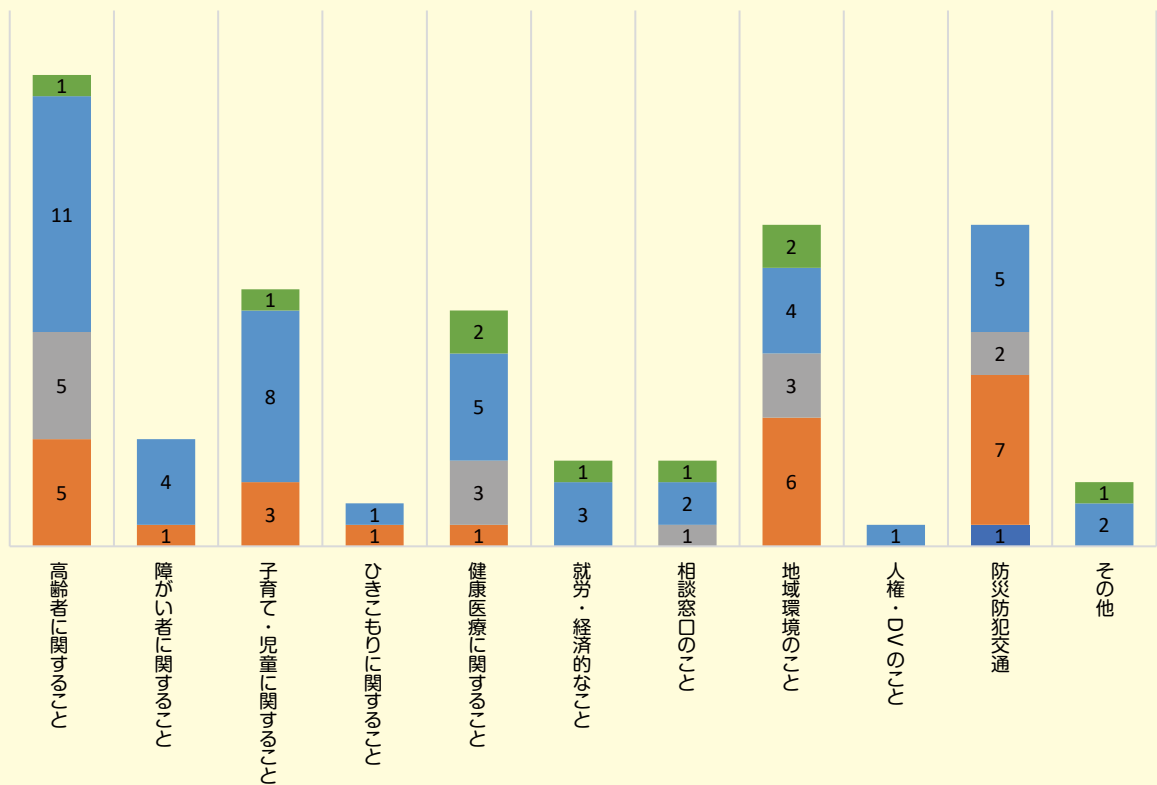
問 5. 問 3 回答の見守り活動内容について。

■ ボラ団体 ■ 自治会 ■ 老人クラブ ■ 母子寡婦会 ■ 民生委員児童委員 ■ 赤十字奉仕団



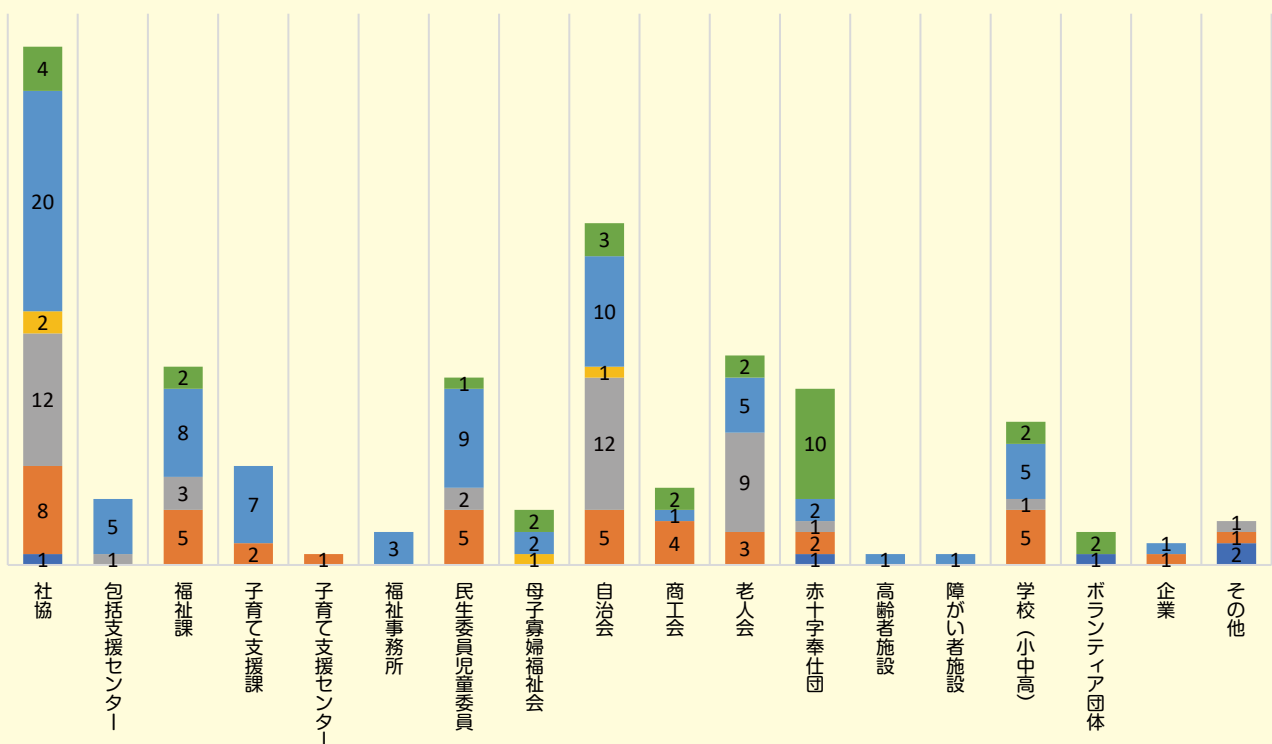
問 6. 活動する中で、相談を受けたことのある内容は

■ ボラ団体 ■ 自治会 ■ 老人クラブ ■ 母子寡婦会 ■ 民生委員児童委員 ■ 赤十字奉仕団



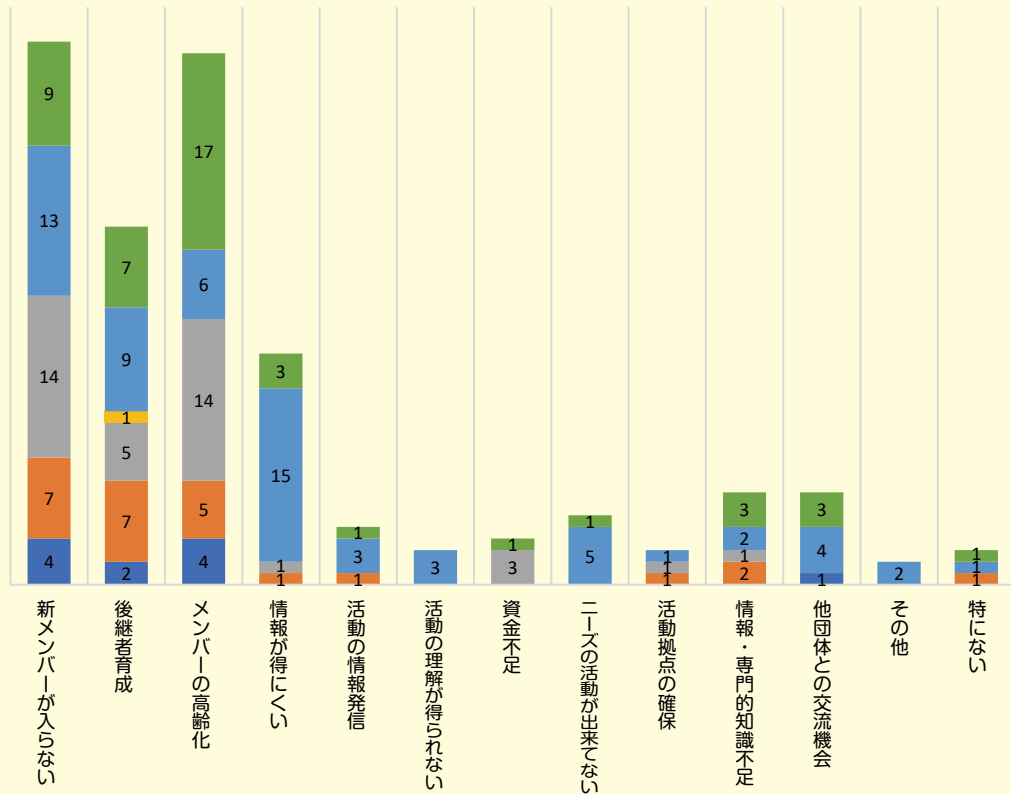
問 7. 活動する中で、連携したことがあるところは。

■ ボラ団体 ■ 自治会 ■ 老人クラブ ■ 母子寡婦会 ■ 民生委員児童委員 ■ 赤十字奉仕団



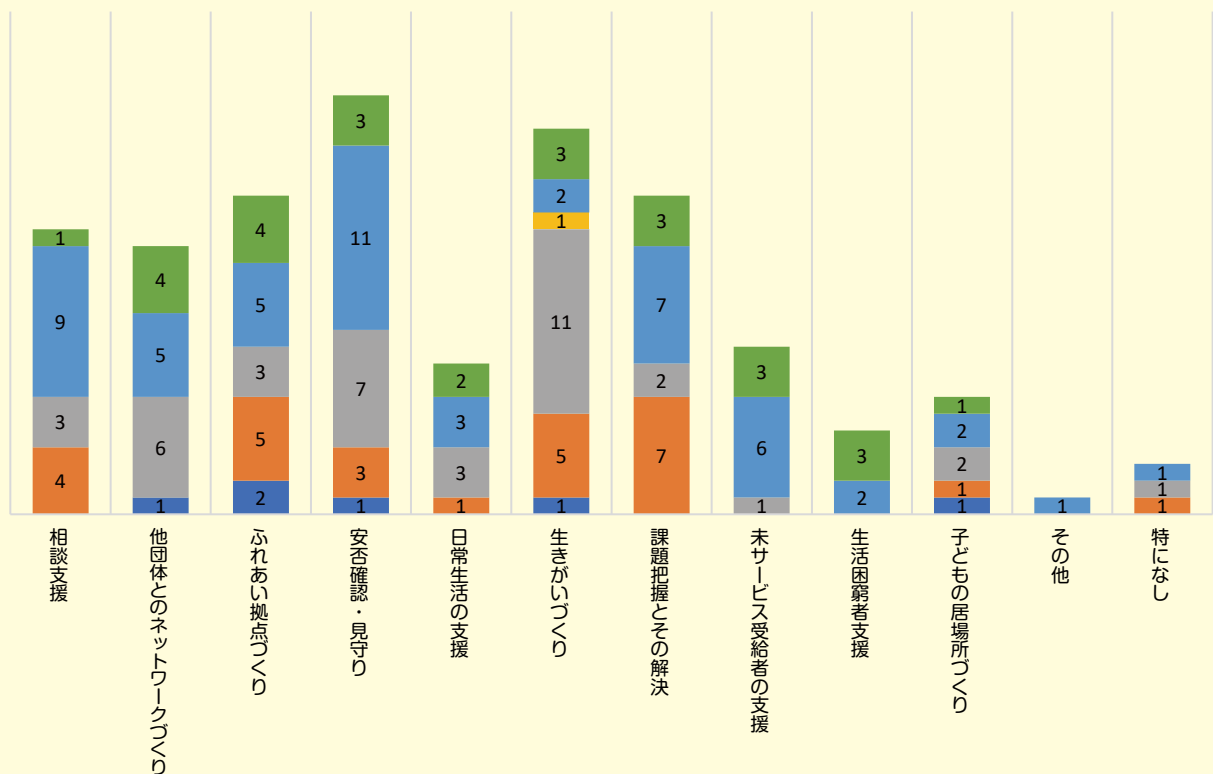
問 8. 団体が活動するうえでの課題は。

■ ボラ団体 ■ 自治会 ■ 老人クラブ ■ 母子寡婦会 ■ 民生委員児童委員 ■ 赤十字奉仕団



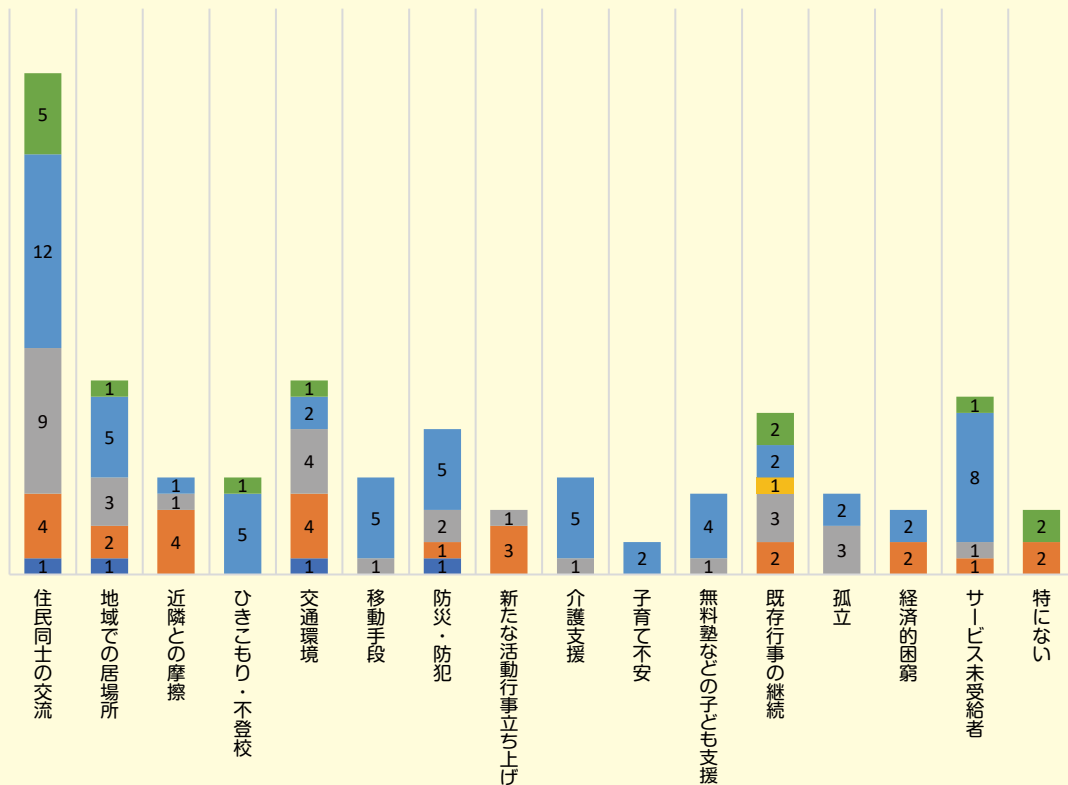
問 9. 今後、力を入れたい活動は。

■ ボラ団体 ■ 自治会 ■ 老人クラブ ■ 母子寡婦会 ■ 民生委員児童委員 ■ 赤十字奉仕団



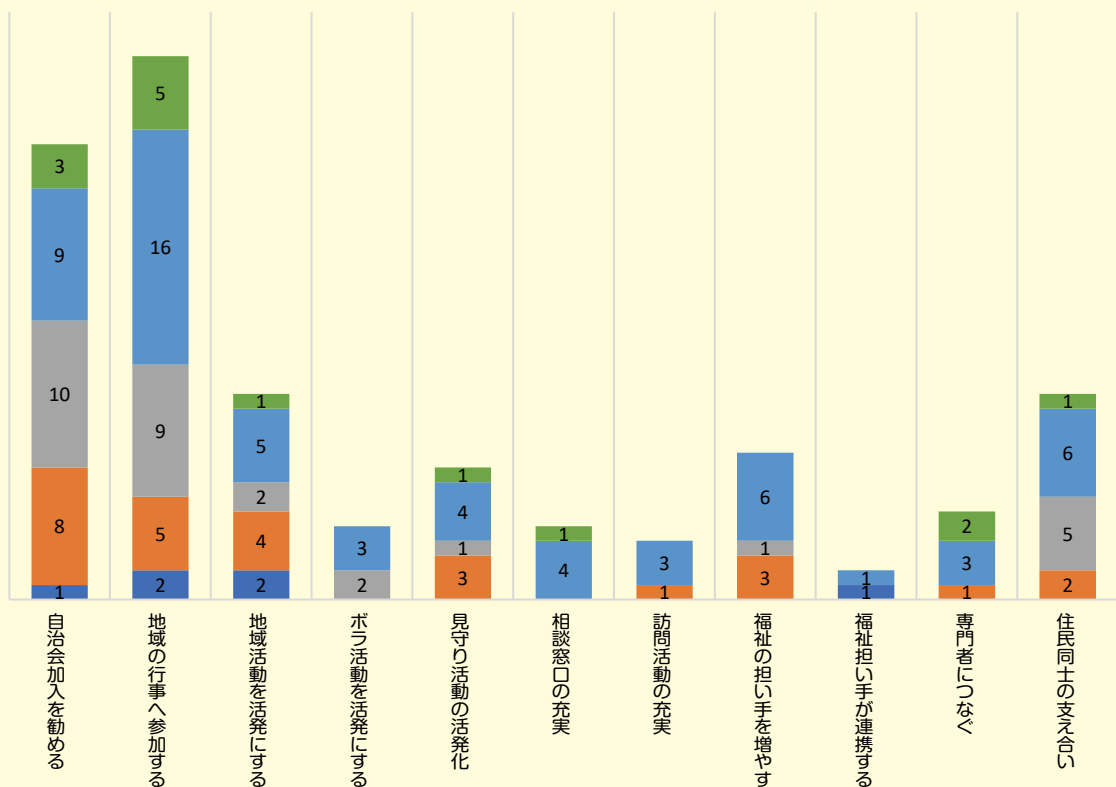
問 10. 地域の困りごとや課題は。

■ ボラ団体 ■ 自治会 ■ 老人クラブ ■ 母子寡婦会 ■ 民生委員児童委員 ■ 赤十字奉仕団



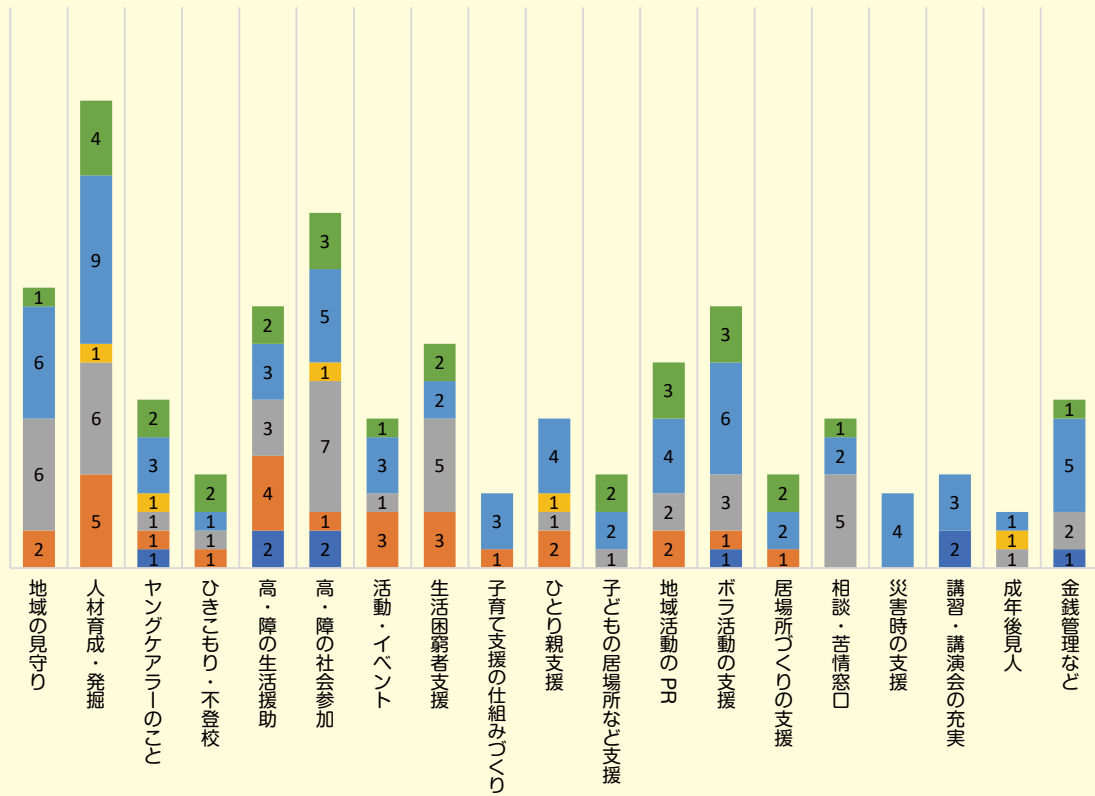
問 11. 困りごと課題解決のために必要なことは。

■ ボラ団体 ■ 自治会 ■ 老人クラブ ■ 母子寡婦会 ■ 民生委員児童委員 ■ 赤十字奉仕団

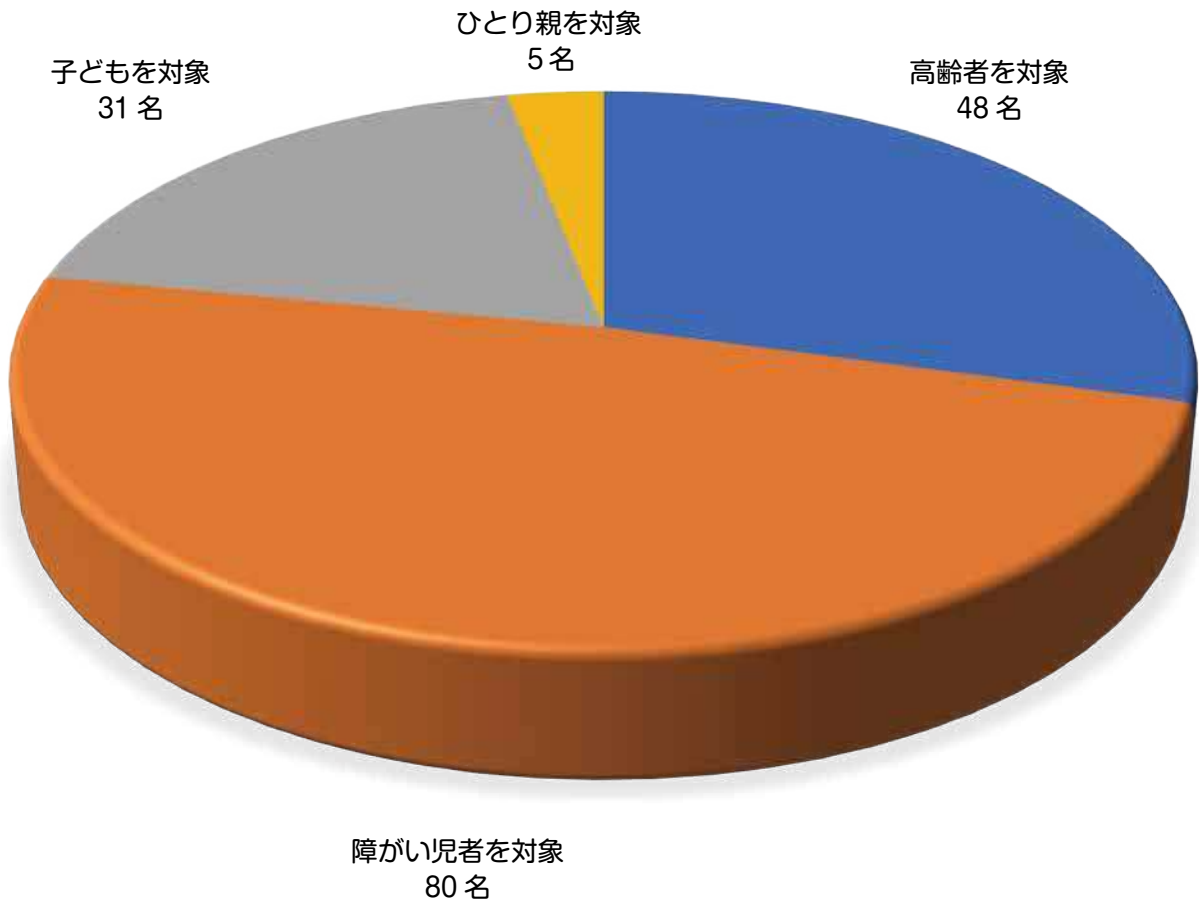


問 1 2. 社協に取り組んでほしいこと・期待すること

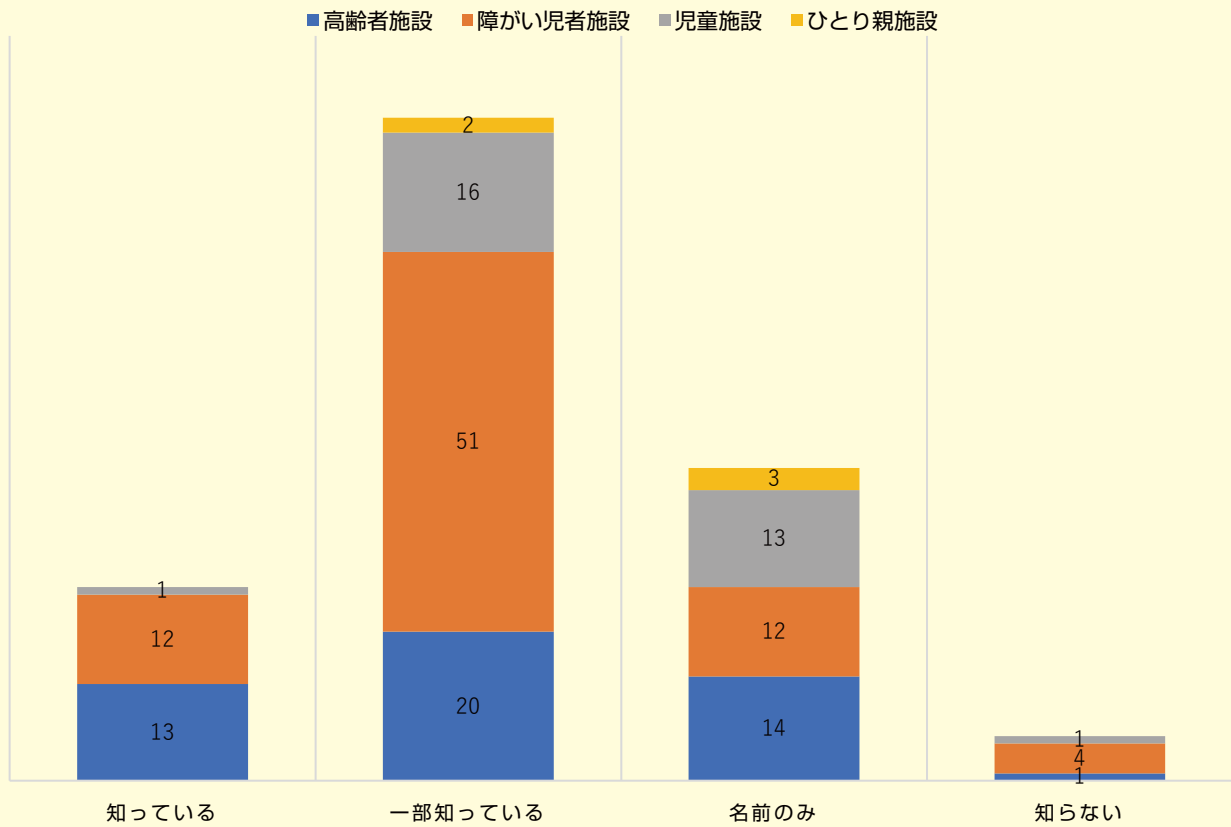
■ ボラ団体 ■ 自治会 ■ 老人クラブ ■ 母子寡婦会 ■ 民生委員児童委員 ■ 赤十字奉仕団



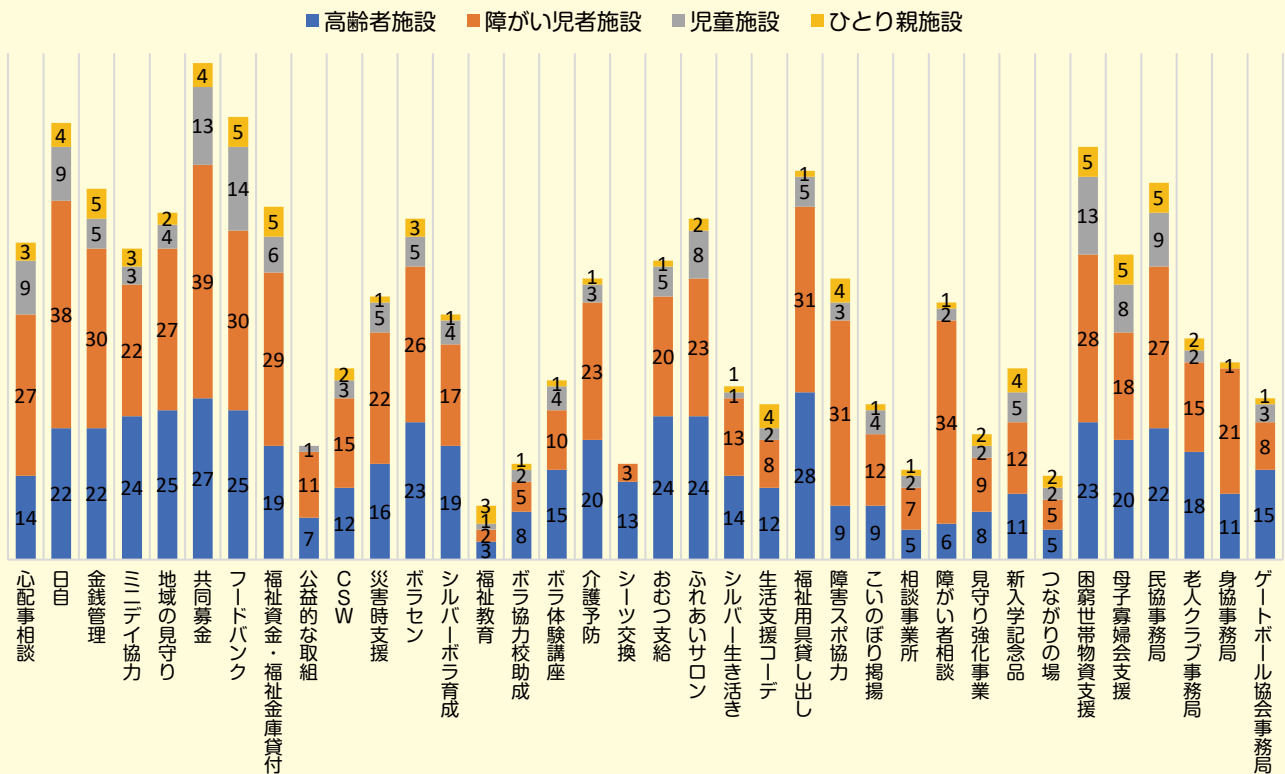
福祉施設・事業所アンケート結果 回答者：164名



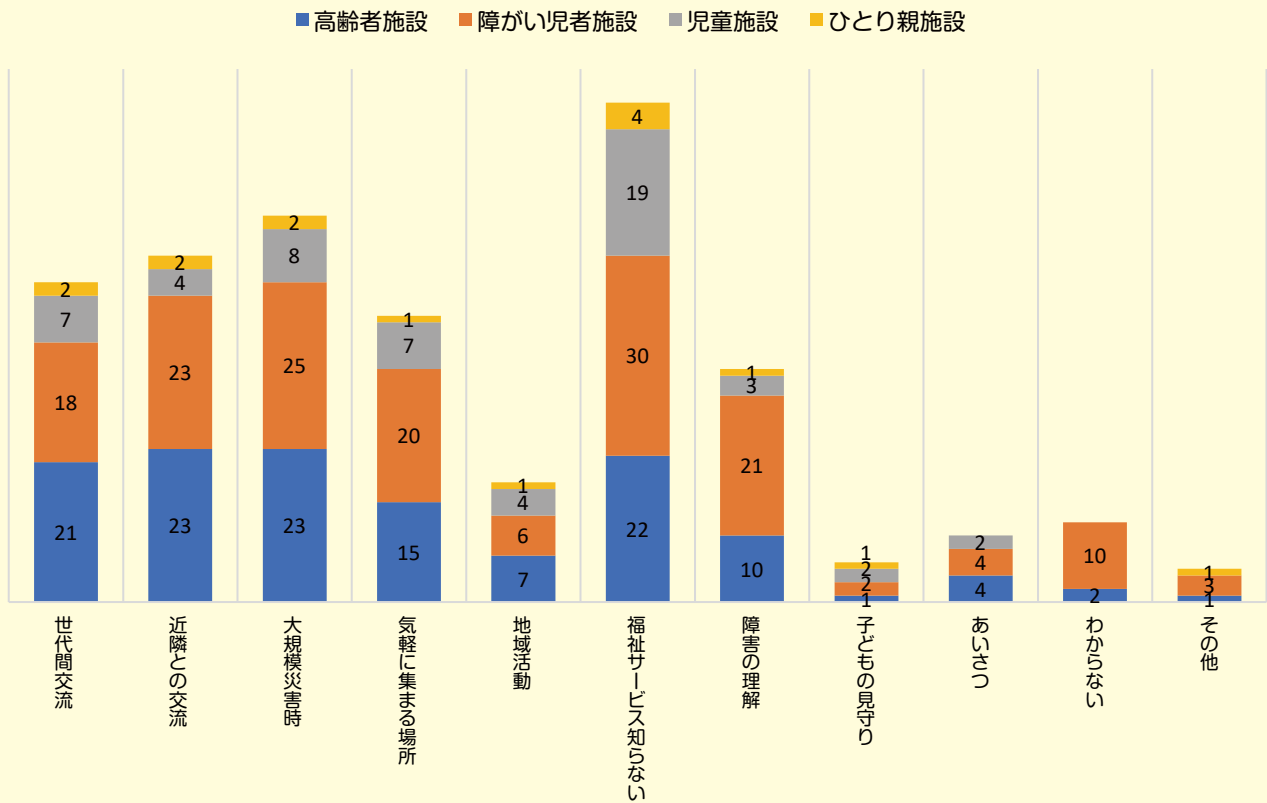
問 3. 社協を知っていますか。



問 4. 知っている社協業務は。

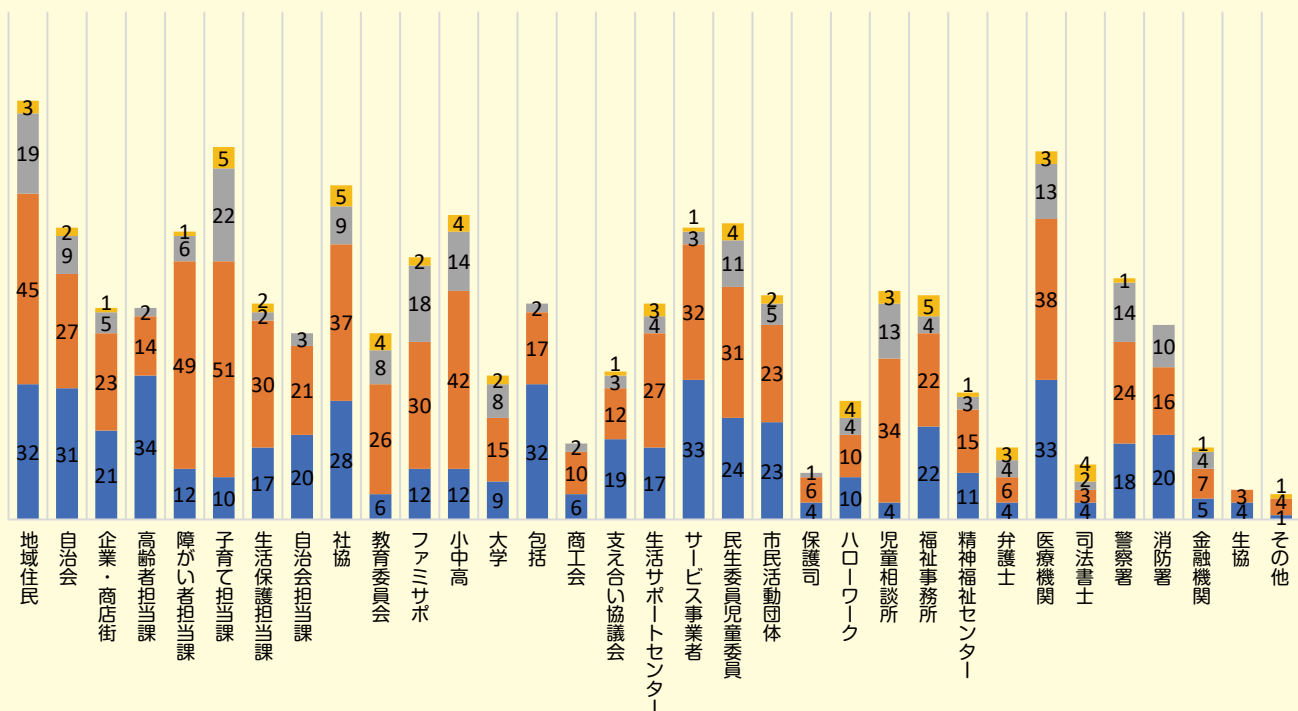


問 5. 対象者を支援するうえで、地域の課題と思うことは。



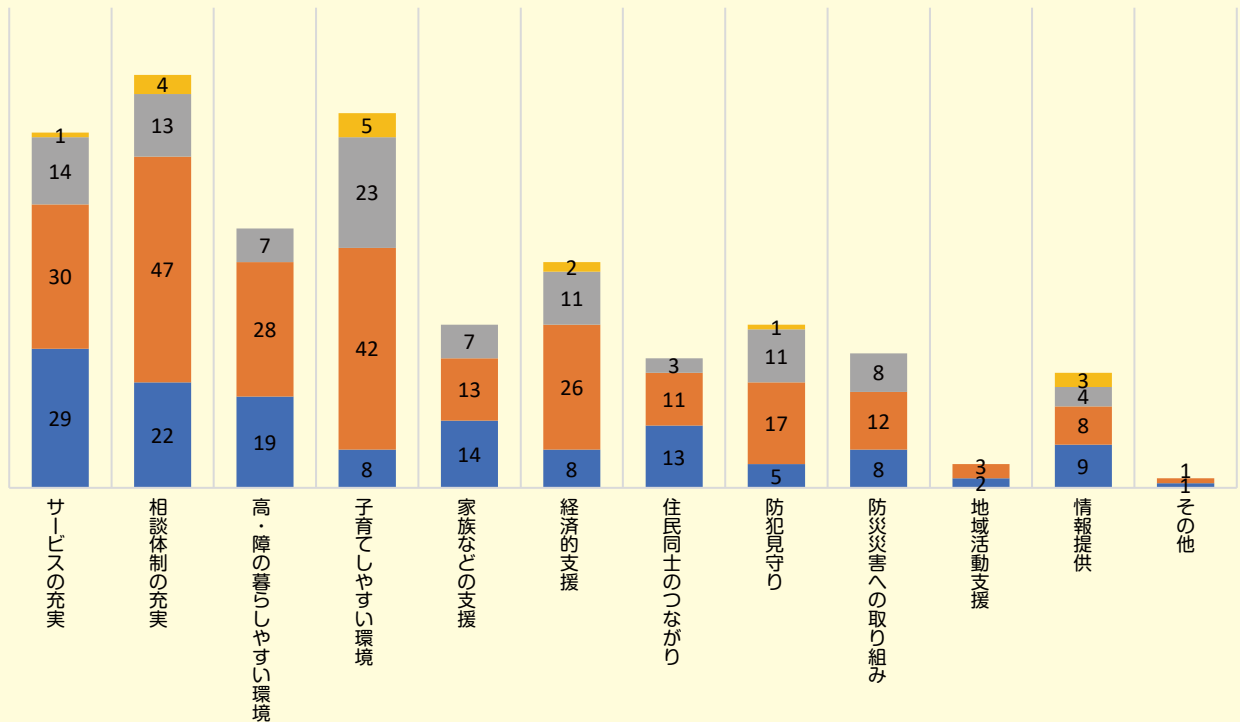
問 6. 対象者支援するうえでの連携が必要と思うところは。

■ 高齢者施設 ■ 障がい児者施設 ■ 児童施設 ■ ひとり親施設



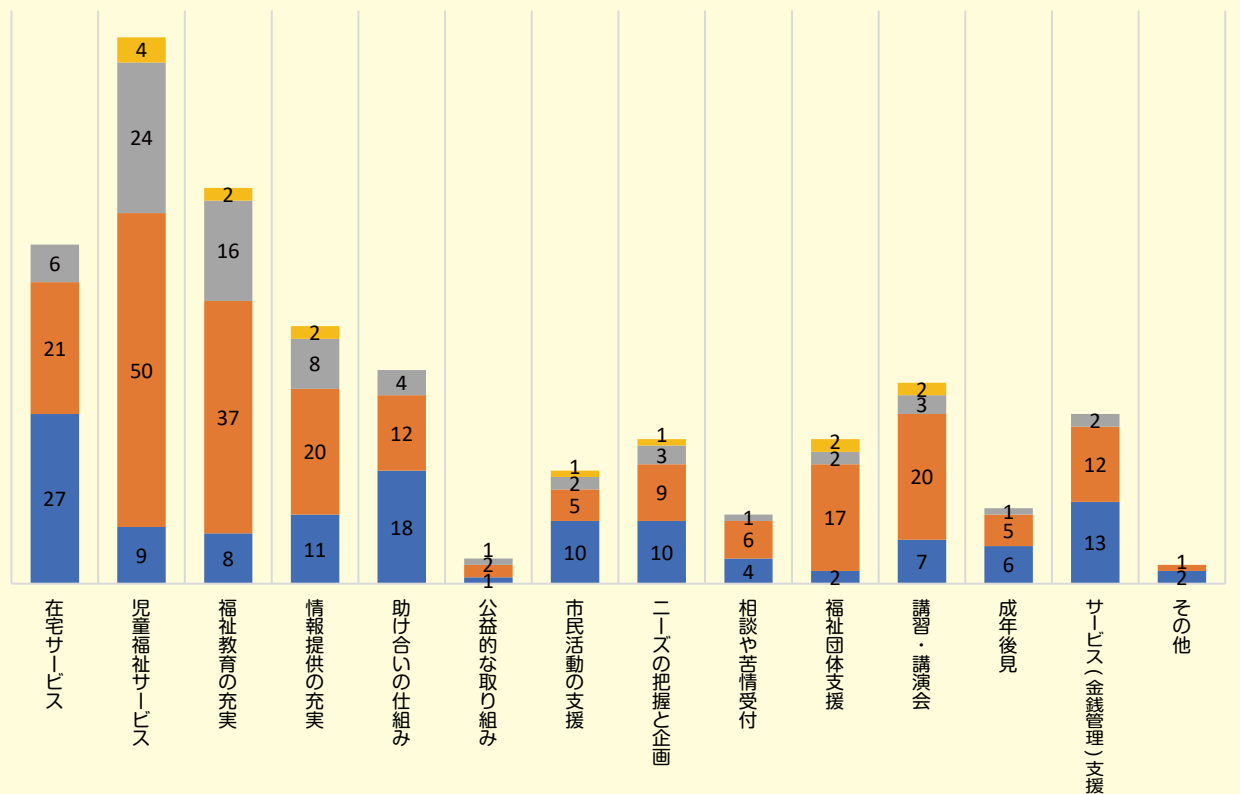
問 10. 対象者が地域で安心して生活するためには、 どのようなまちづくりが必要か

■ 高齢者施設 ■ 障がい児者施設 ■ 児童施設 ■ ひとり親施設



問 11. 社協に期待することは

■ 高齢者施設 ■ 障がい児者施設 ■ 児童施設 ■ ひとり親施設



*資料3

みんなで地域活動を考える「ワークショップ」の概要（全3回）
～地域のきずな つながりのある福祉のまち～

1. 目的

住民参加を基調とした計画づくりの視点で、「地域のきずな つながりのある福祉のまち」をキーワードに地域関係者・団体や施設等が互いを知るきっかけづくり、情報交換・共有できる場として、よりよい地域活動につながることを目的に開催。

2. 開催日程

- ①令和6年1月10日（水） 19時～21時
 - ② // 1月29日（月） 19時～21時
 - ③ // 2月7日（水） 18時～21時
- *2/7はワークショップ終了後、懇談会も実施。

3. 会場

与那原町上の森かなちホール

4. 実施方法

1グループ5～6名に分かれ、各グループでテーマに沿ったグループワーク（意見交換）を行う。

5. 進行

まちなか研究所わくわく（宮道喜一 氏、金城陽平 氏）

6. 内容

- 1回目（1月10日） *参加人数34名
- ・第3次地域福祉活動計画の概要とワークショップの目的
与那原町社会福祉協議会 松 長 孝
 - ・与那原町の地域福祉の現状～アンケート調査からみえてきたもの
与那原町社会福祉協議会 事務局長 伊 集 京 美
 - ・意見交換 「地域の困りごとと頑張りを共有しよう」
まちなか研究所わくわく 宮 道 喜 一

2回目（1月29日） *参加人数31名

- ・1回目のふりかえり
- ・意見交換 「テーマを選んで話し合おう」、「将来の夢を語る」

3回目（2月7日） *参加人数34名

- ・2回目のふりかえり
- ・意見交換 「世代に応じた地域参加の形」
- ・ワークショップ終了後、懇親会（*進行 社協）

7. 参加者

社協理事・評議員、民生委員児童委員、赤十字奉仕団、区長会
ボランティア・ミニデイ協力者等、町老連評議員、町内福祉施設
町内福祉事業所

与那原町社会福祉協議会 第3次地域福祉活動計画策定

みんなで地域活動を考えるワークショップ**通信 1**

～地域のきずな つながりのある福祉のまち～

発行：社会福祉法人 与那原町社会福祉協議会 発行日：2024年1月29日

**ワークショップスタート！**

与那原町社会福祉協議会では、地域住民を主体として、地域で福祉活動を行う様々な関係者が、相互に協力し地域福祉を推進するため、「第3次地域福祉活動計画」策定に取り組んでいます。

策定に向けて、社協や専門家の視点だけでなく、住民の皆さまと福祉活動を行う皆さまの様々な視点を計画に反映するため、全3回のワークショップを実施します。全3回を通して、地域住民と福祉事業所がお互いを知り、連携しやすい環境をつくっていきます。

第1回 概要&プログラム

日 時：2024年1月10日(水)19:00-21:00

場 所：上の森かなちホール

参加者：34名

19:00 開会・あいさつ

19:10 計画の概要とワークショップの目的

19:25 グループワーク「自己紹介」

19:45 与那原町の地域福祉の現状

20:05 グループワーク

「地域の困りごとと頑張りを共有」

21:00 終了

地域の困りごとと頑張りを共有！

第1回では、民生委員・児童委員、老人クラブ、区長、自治会長、福祉事業所など34名の様々な参加者が集まり、4～5名の7グループに分かれ、各グループの自己紹介を行いました。

その後、令和5年9月から10月に実施した地域福祉意識調査アンケートから見えてきた与那原町の困りごとをもとに、グループで意見交換を行いました。(詳しくは裏面から！)



△開会あいさつ(与那原町社協 会長 糸数元)

各グループで出た「地域の困りごと」と「地域での取り組み」

地域福祉意識調査アンケート(地域・関係者団体用)問 10.地域の中での困りごとや課題から、回答率が高かった6項目をグループワークのテーマとして設定しました。各グループで6項目から話し合う項目を2つ選び、「地域の困りごと」と「今ある取り組み」を付箋紙に書き出し共有しました。

以下、テーマごとに付箋紙の内容を記載。

テーマ1 近隣住民同士の交流

グループ	地域の困りごと	地域での取り組み
1グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの誰だか分からない ・ 認知症の一人暮らしの方がいて心配 ・ 夏休みのラジオ体操をやりたいのだが子供達の名簿リストがなく声のかけようが無い ・ 家から出ない方が、交流がむづかしい？ ・ 何かあった時誰に相談すれば？ ・ 交流会はあるだろうが情報が入ってこない ・ 90代の方がいて病院も行かない 特定健診も受けていない ・ 知らない人と交流をしたくないと消極的な方が多い ・ 評議員の立場で自治会の加入をお願いするとけんもほろろの場合が多くなった ・ 認知症かな？ ・ 自治会加入率 ・ 登校時生徒さん達の挨拶、笑顔がほとんどナイ！ ・ 独居高齢者への対応 ・ 登校時の道路幅が狭くて非常に危険である ・ 新、旧住民の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域見守り隊 ・ ケアマネと密に連絡 近隣の方の協力がある ・ 法人や社協とかの健康教室 ・ 最近顔が見えない？家の中で過ごしている ・ 区内ですれ違う方には極力あいさつをすることになっている ・ 夜間出歩かないよう共益費の預かりなどを行っている ・ 町 江口 ゆんたくカフェ
2グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会費を払ってくれない ・ 近所にどなたが住んでいるかわからない ・ 外に出て遊ぶ人がいない ・ 人材が少ない？ ・ 気心の知れた人とは交流あるがその他は全く無い ・ 自治会加入者の減少 ・ アパートにどんな人が住んでいるかわからない ・ 組織が結成されていない PTA 支部、青年会、女性会等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎週土曜日7時から評議員で地域掃除 ・ ミニデイへの呼びかけする ・ ミニデイへの参加 ・ 情報提供の方法の工夫 区便り 老人会便り ・ 週1回の豆腐販売カーが近隣の絆になっている ・ 集会所で踊りなどを楽しむ ・ 集会所でお花を植えて楽しむ ・ 楽しい場づくり ・ 公民館に集合しやすい場をつくる 会合とか ・ 出会いの場を多くつくる ・ 活動の様子を多くの区民に見てもらう ・ 近隣住民との交流が昔みたいにならなくなった ・ 外部から来ている人が増えている ・ 区の行事に参加してくれない ・ 民生委員のなり手がいない ・ 情報提供の方法に課題がある





<p>3 グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文明の変化で住民同士の交流の必要性が薄くなってきている ・ アパートなどの住人がわからない ・ 自治会に加入してない家庭への対応(アパート住民の増加) ・ 近所にどんな人が住んでいるかあまり知らない ・ 災害時に助けあいができない ・ 個人個人のつき合いがないと思う ・ 子どもが親以外の大人と交流する機会が少ない ・ 子どもが留守番するときに心配がある(見守り) ・ SOS が出しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月第4(土)区内清掃 ゴミ拾い 楽しいコーヒータイムにしている ・ 毎月第2(金)老人クラブの定例会とゆんたく会をもっている 中島区 ・ 月に1回のふれ合い会がある ・ 各種行事への参加呼びかけ(自治会)・新年会・スポーツイベント・観月会等 ・ PTA(区)で行事をする事で近所に声かけ ・ 近所の母親同士で集まる ・ 民生委員としてお弁当チケット配付、訪問 ・ LINE オープンチャットでの相談 ・ 児童館で幼児クラブ 子育て支援 親が集まる場所 ・ 公民館でのイベント 敬老会 まつり等 ・ 与那原公園で囲碁 ・ 週1回の夜のパトロールがある ・ 作品作り、踊りなど、楽しみながら行っている ・ 交流がないので相談できる場所がない
<p>5 グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集合住宅で顔がよく見えない ・ 住民を知らない ・ 交流の場がわからない ・ 世代間交流ができていないようにみえる ・ き流民の多さ ・ 区民台帳がない ・ 個人情報の問題 ・ 知らない 教えない 見えない ・ 名前を知らない ・ 隣近所との交流なし ・ 自治会活動への不参加 ・ 民生員を知らない ・ 世代の入れかわりが無い ・ 行事に参加したくても足がない 不便 ・ 不登校施策があるけどわからなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ つな打ちが行われている(東浜公民館) ・ ミニデイ公民館 30名位 ・ 見守り(夜) ・ 評議員の研修 江口区20名 施設見学等(バス使用) ・ ゆんたく会 公民館1F(男) 個人の駐車場(我喜屋さん) ・ ひまわり会 30人  

テーマ 2 子ども、高齢者、障がい者の地域での居場所


グループ	地域の困りごと	地域での取り組み
2グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供がいない 少ない ・ 高齢者が家で話し相手 1人住まいでどうしたらいいのかわかっている ・ 元気な高齢者は区の行事へ参加出来るが歩行が難しい方は参加が難しい ・ 一人暮らしの高齢者の身体の急変 ・ 子どもが家で1人で遊ぶ相手がなくて困っている ・ 子供の姿が見られない ・ デイサービスに通所であり交流がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流の場を多くつくる ・ 各種愛好会をつくり活動する ・ 地域行事への参加の声かけ ・ 週1回の公民館での健康体操教室 ・ 少人数のシェアハウス ・ 登校時出来るだけあいさつをしてあげる ・ 各家に情報のチラシを配る ・ 公民館で集まって遊べる場をもうける ・ 区で高齢者のモアイをして集会所に出向いてもらう
3グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際にはかなりの人が困っている状況あると考えるがどんな人が困っているのかわからない ・ 子供がどこに居るのかわからない 表に出る子とでない子がいる ・ 行政区の範囲が広く、現在、区事務所しかない ・ 上与那原区に学童、児童館が欲しい ・ 世代間の交流があると知恵を教えられるのでは？ ・ 障がい者の方に関わる機会があると診断や怖いとかのイメージをなくすのも良い(不審者) ・ 相談できる人が必要 ・ 知ってる顔が少ない ・ 居場所(公民館など)があっても利用しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の方から声かけ知り合い仲良くするようにしている ・ 老人会毎月一回区内の清掃をやっている ・ 個人宅を活用しているケースもある ・ 学校が休みの日に児童館の行事へ声かけ ・ まつり(三世代交流のイベント) 
4グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達の居場所が少ない ・ 小学校1年生の女子児童が不登校してさくら猫と遊んでいるとの相談あり ・ 点字ブロックの上にオートバイが止まっている ・ 中学生(高校生)が沢山集まっている 夜遅くまで！！ ・ 高齢者がなかなか出てこない ・ 高齢者(85才)から自分の息子がたまたま実家に来てお金を盗んでいる ・ 子ども達のあいさつが少ない ・ 近くの住民の状況がわからない ・ 団地内で皆さんとの交流がないので困っている むずかしい！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民舞サークルを週1回行っている ・ デイサービスとの交流を行っている ・ 子ども及び高齢者対象に三線教室を開いている(公民館の活用) ・ ミニディーがある ・ 高齢者対象に公民館でカラオケサークルを開いている(公民館が活用) ・ 夏休みのラジオ体操 ・ 児童館がある 


<p>6グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場所を知らない ・ どこに子ども、高齢者がいるのか分からない ・ 障がいを持っている人がいるのかわからない ・ 障がい者の居場所が必要 ・ とり近所の交流がない ・ 対応の仕方ふくざつになっている ・ 障害者が利用している施設とか分からない ・ 地域に子どもが何名いるかハッキリしてない ・ 地域の状況がわかりにくい ・ 高齢者の居場所づくり ゆんたく場所 きがるに ・ 子供達の遊び場所がない ・ 状況を知られたくない(個人)なので動かない ・ そもそも困っていない(関わってほしくない) ・ 子ども達が外であそぶ機会がなく室内でゲームスマホであそぶのが長いので心配である ・ 地域での高齢者と障がい者の方の数がわかりにくい ・ 相手を信用できない していない ・ とり同士つながりが少ない ・ 地域行事にいつもの顔であんまり関心のない人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区の行事に子供会(PTA)と参加してもらっている ・ こどもたちを知るにはPTA とのつながりを持つ ・ 地域での行事としてミニデイ つなひき ・ 月1回のミニデイをかいさいしている ・ 地域でのあいさつ 大人からやると返事が返る ・ 社協から訪問依頼があった時に訪問する ・ 地域内の保育園と老人会との交流会 ・ 地域の美化セイソウの時、子ども、老人を含めて区民がいっしょに行っている ・ 利用する人したい人に対して発信をしている ・ ちいき資源を活用して取り組みをつづける 
<p>8グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所が休みの日は家に閉じこもりがち ・ 区の集会所なし 親川広場利用 ・ 老人会活動で外出が難しい人をどう連れ出すか安全(ケガをしないで)来てもらう方法がない ・ 居場所としては区の公民館が適当だが常時開けておくことは困難(責任者確保) ・ 利用していることを知られたくない ・ 利用していると貧困や悪いイメージを持たれる ・ 介助が必要な方はなかなか外に出ない 出られない ・ 子供達との交流の場がない ・ 子どもも忙しい ・ 1人でも楽しめる世の中になっているのでそもそも必要としていない ・ (中高生)子ども達の余白が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミニデイで高齢者の居場所を作っている 月1回 ・ 3~4カ所の子ども食堂 ・ ミニデイ 高齢者と年に一度バスツアーを実施している ・ ミニデイでは模合もする(欠席しづらくなる) ・ 区民参加の観月会 新年会の実施 ・ 地域の行事に参加して知り合いをつくる 顔を売る ・ 子ども達が独居の高齢の方の家の掃除 ・ 近くの学童との交流 ・ 区の綱引きが年に一度あり親子で参加している ・ 児童館 ・ 地域の事業者 

テーマ 3 歩道の段差、違法駐車などの交通環境の整備

グループ	地域の困りごと	地域での取り組み
1グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ デイケア送迎時通行しにくい ・ 違法駐車が多い デイサービス送迎車両が止めにくい ・ 駐車するフリースペースがない ・ オリオン通りの筋道は飲みに来た人が朝まで止めている ・ 不法投棄 ・ 不法無断駐車 ・ デイケア送迎時駐車場所 ・ 駐車場が少ない ・ 無断駐車が多い ・ 森下区は道がとにかく狭い 一方通行にして欲しいが中々難しいみたい！ ・ とびだし ・ 与那原軽便駅舎まわりの違法駐車 少しは減ったけどまだまだ ・ 道路の横断 ・ 与那原交差点はアブナイ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役場へ連絡したりポールを立てたりするが役に立っていない  

テーマ 4 日常の防災・防犯対策や災害が起きた際のこと

グループ	地域の困りごと	地域での取り組み
4グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老人及び障害者の避難時の誘導に困る ・ 火災報知器の誤作動が有り ・ 防災、防犯、災害の話合いがされていない ・ 団地内の皆さんとの大きな火災訓練ができてない ・ 区の行事に参加しない人達が避難場所が判らない ・ 近所の方との付き合いが少なくなっているので情報のやりとりがむづかしい ・ 実際に避難する場所が必要である ・ 避難場所になっているが皆さんを受け入れながら保育ができるのか？ ・ 町役場との連携の内容を具体化しなくてはいけない ・ もっと具体的に考えていかなければいけない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 点字ブロックの上にオートバイを止めない様注意している ・ 点検回数をふやすことで改善出来る ・ 地震、津波避難訓練を年 1 回実施している ・ 毎月の避難訓練を行っている ・ 支援の取り組みが必要(マップ作りとか) ・ 区では登下校時の交通指導及び防犯活動を実施、又、青パトロールを実施している ・ 年 1 回の県、町、一斉避難訓練に参加している ・ 防犯カメラを設置している 

6グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練をしていない ・ここがいい場所 ベストかベターか とりあえずの場所なのかどうか ・災害が起きた時にどのように行動すればいいのかわからない ・火災探知機がつけてない家が多い ・災害時の炊き出し訓練が必要 ・定期的に防災防犯に関心を持ち訓練がほしい ・災害が起きたときにどこに逃げるかわからない ・災害の意識 危機感がない ・柔軟な対応ができるか形になっているか(誰かがいないとき) ・火災保険の意味を理解しているか ・消化器の期限きれなど！ ・ちゃんと消化器を使えるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニデイで警察の方を読んでお話を聞いてもらった(防犯などについて) ・防犯灯を個所箇所に設置して明るくしている ・各家の玄関のライトを朝までつけている ・ミニデイで警察署の協力を得て講話をしてもらっている ・1人暮らしの年寄りの家に火災報知器を設置する ・消化器がある 接地している ・1人暮らしの方の安否確認 声掛け ・防災・防犯対策に参加している ・映像や音で反応するようになっている
8グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の要注意人物等が把握出来ておらず共有出来ていない ・上与那原は高台であることから避難訓練がおろそかになっている ・歩行が困難な人 津波情報が出た時にどこへ逃げるか 近所には3人いる ・避難者手助の必要の方 情報なし ・緊急連絡(災害伝言ダイヤル)の取り方が知られていない ・職員が少ないので車イス利用者が多いと避難がむずかしい ・避難場所が遠い ・高齢者で手助け必要な方の情報 ・夜間対応している医療機関が少ない ・アパートまで地域住民が住民同士を把握していない為救助が遅れる ・防災無線が聴こえないことがある ・障害者の居場所がわからない ・地域での交流がうすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路の確認を実施 ・年に一度の地震・津波避難訓練に参加 ・事業所で非常食 常備 ・評議員会で老人の居場所を確認し合っている ・お知らせ(予定表)を配るときできるだけ本人に会うように 安全確認も含めて ・集まりに欠席した人には弁当を届けている(ミニデイのあとで) 

テーマ5 既存の活動・行事の継続

グループ	地域の困りごと	地域での取り組み
5グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・婦人会がなくなった ・活動、行事がわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・江口まつり150名 ・区新年会120名 ・古紙回収 6～7名参加 ・女性会がある

※「テーマ6 福祉サービスの利用に結びついていない人の存在」を選択したチームはありません

参加者の感想

ワーク後、3名の参加者より感想をいただきました。



△照屋 勤 さん

人と人のつながりで解決策を探して、いいことだな。未来は明るいなど。できることからはじめていこうと思いました。

交流の場に参加する機会をもらい、うれしく思っています。実際に色々な活動を知ることができて、機会があれば参加したいです。



△瀬底 世津子 さん

皆さん初めての方ばかりでしたが、テーマにそって、このグループできずなを持たせたかなと思います。次回も楽しみにしています。



△冨田 琢磨 さん

第2回ワークショップ開催します！

第1回ご参加の方も、第2回からご参加の方も、様々なご意見お待ちしております！

- ・日 時 1月29日(月) 19:00-21:00
- ・場 所 上の森かなちホール
- ・テーマ 将来の夢を語る

今後のスケジュール

第1回 1月10日(水)
地域の困りごとと頑張りを共有

第2回 1月29日(月)
将来の夢を語る

第3回 2月7日(水)
ライフステージに応じた地域参加のカタチを考えよう

第3次 地域福祉活動計画策定へ

発 行：社会福祉法人 与那原町社会福祉協議会

発行日：2024年1月29日

問い合わせ先：電話 098-945-3016 / FAX 098-946-7970

作成・編集：NPO 法人まちなか研究所わくわく



アンケートより

第1回ワークショップの参加者アンケートから、回答の一部をご紹介します。様々な感想、ご意見ありがとうございました。

○参加しての感想

(満足度の理由・参加しての気づきより)

- ・ 地域の方と少なからずつながりが持ててよかったです。良い機会にしたいです。
- ・ 地域の困り事、取り組み等、深く意識して考える事が出来ました。良かったです。
- ・ 立場等で意見が違うことが理解できたこと
- ・ 与那原の未来に向かって前進できるプランをたて行動をおこし考えていきたいと思えます。
- ・ 地域づくりに取り組む皆さんの考えを聞いて本当に良かったです。それぞれの立場でできること、視点、すごく大切だと感じました。
- ・ 気づきや学びがあった。どの世代や各々活動の中で共通した課題があること。工夫した取り組みがなされていること。

○運営・改善へのご意見

(満足度の理由・参加しての気づきより)

- ・ 第1回ということで説明等の時間が多かったかなと
- ・ グループに民生委員の参加が多かった。他の団体や事業所の方がいたらよかった。
- ・ 事前知っておれば考える時間があり、(ワークショップの資料)意見も言えたと思う
- ・ 参加者の意見交換が少ない→中味を掘り下げることがない

与那原町社会福祉協議会 第3次地域福祉活動計画策定

みんなで地域活動を考えるワークショップ 通信 2

～地域のきずな つながりのある福祉のまち～

発行：社会福祉法人 与那原町社会福祉協議会 発行日：2024年2月7日



与那原町社会福祉協議会では、「第3次地域福祉活動計画」策定に取り組んでいます。その一環として、住民の皆さまと福祉活動を行う皆さまの様々な視点を計画に反映するため、全3回のワークショップを実施しており、1月10日(水)に第1回、1月29日(月)に第2回を開催しました。

第2回は地域の将来像を語る！

第2回では、新たな参加者も加わり、民生委員・児童委員、老人クラブ、区長、自治会長、福祉事業所など合計31名の方が参加され、7グループに分かれスタートしました。第1回ワークショップのふりかえりを行い、第1回で話し合った各グループ2つの「地域の困りごと・課題」から1つを選び、「10年後のありたい姿」と「そのために必要な取り組み」について話し合いました。(詳しくは次頁へ！)。

第2回 概要&プログラム

日 時:2024年1月29日(月)19:05-20:50

場 所:上の森かなちホール

参加者:31名

- 19:05 オリエンテーション・第1回ふりかえり
- 19:15 グループ内自己紹介・近況報告
- 19:50 意見交換
「テーマを選んで話し合おう！」
- 20:00 意見交換「将来の夢を語る」
- 20:30 他のグループの意見を見てみよう
- 21:00 参加者の感想・終了



第1回 1月10日(水)

地域の困りごとと頑張り
を共有

第2回 1月29日(月)

将来の夢を語る

第3回 2月7日(水)

ライフステージに応じた
地域参加のカタチを考える第3次 地域
福祉活動計
画策定へ

将来（10年後）の夢を語る。そのために必要な取り組みは？

第1回で各グループが話し合ったテーマから1テーマを選び、「10年後にどうなっていたいか、誰がどういう状態にありたいか」、そのために「どのような取り組みがあるとよいか」を、付箋紙に書き出し共有しました。以下、テーマごとに付箋紙の内容を記載。

テーマ1 近隣住民同士の交流

グループ	10年後にどうなっていたいか	どのような取り組みがあるとよいか
1グループ	<ul style="list-style-type: none"> 顔の見える関係になる 福祉課とか社協と気軽に知り合いを持っていたい 年齢関係なく集まれる集会有る 自治会、老人会、PTA 支部などの組織が何とか現状維持している 地域の子供会と交流会、夏休み老人会と交流 異世代交流の活性化 民生委員は辞めているので老人会の役員をやってもいいかな 近隣で名前までは分からなくて良いが顔は分かるぐらい 新・旧住民の交流活性化 息子との交流が増えるといいけど私は多分ヒマになっているけど息子は忙しいかな 自治会の加入率↑ 団地の団らん室をもっと活用できたらいいナ！ 心はまだ若い。10年後今より活動できる いつも子どもの声がきこえてくる 団地内の人とはいい関係性を築いていると思うので10年後も大丈夫だと思う 日の出園がイベントを多く開催する 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民が楽しく参加できる行事 区で子ども達も楽しめるイベントを毎週する 与那原祭りへの参加。昼食、おやつ作り、親子で楽しく参加 子どものすず場所づくり(公園、学習部屋) 地域住民が「ふらっと」立ち寄れる場所づくり 社協の予算でバイキング等の交流会をする 自治会の新規加入を行政からサポートする仕組みが出来ないか？
2グループ	<ul style="list-style-type: none"> 向こう三軒両隣の顔が見えるような地域 住民が楽しく参加できる行事や場が増えたら良いな 元気でお友だちと楽しくすごしていきたい 公民館が色々なサークル活動ができる施設になったら良いと思う 認知症でも安心して暮らせる地域 子供達が参加できるいろいろなグループをつくりたい 笑顔であいさつがかわせる地域 区の行事に積極的に参加出来るようになりたい 近隣住民が会えばあいさつ、雑話ができたらいい 公民館活動を楽しくすごせるようになりたい 	<ul style="list-style-type: none"> 例:小学1年、中学1年、高校1年、大学入学、成人式おめでとうを形に 例:マックの券 愛を形にプレゼントを作りたい 人材が増えたら良い 情報の共有化ができるが良い 近隣の声かけ 見守り 食事会 料理作り 公民館の施設の充実を図る 住民が集まる場所で話し合い、ならいごとをする 携帯の取り扱いがみんなができる



	<ul style="list-style-type: none"> ・ わかるがかわるって与那原町が明るくなっている ・ 自治会への加入者が増えたらイナナー ・ 子ども達へ負担にならないような身体づくり ・ 交流場所がいつでも集合できる様な雰囲気があればいい ・ 子や孫に迷惑をかけずにいたい 	
3グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的に安定した生活が出来る ・ 区事務所でならい事ができて、みんなが集まるようになった(三線教室やその他のならい事) ・ きがるに参加できる場所(公民館等)や地域行事が継続され、又は新しく出来ること。ふれあう場が近くにあることが必要では ・ 働き方が変わっていると嬉しい ・ 地域住民がお互いを気遣い助け合える ・ 現在ある伝統的なイベントは発展的に継続する ・ 行事がふえてたのしい会になっている ・ 朝ごはん(モーニングコーヒー)、交流、気持ちのゆとり ・ 気がねなく声をかけ合える雰囲気になっていたら ・ 自分が進んで声かけして知人、友人をたくさん作る ・ 地域に学童、児童館ができてるといいな! ・ 地域の役割も有給(謝金など)にしていく(ボランティアではなく)そしたら仕事も休みやすい ・ 地域のつながりがうすれるとどうなるか共有できてみんな意識を持ってつながるようになったら ・ 役員が固定化されずローテーション(持ち回り)になっているといいな 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役場から支援が必要。先生などの派遣 ・ 世代間の交流が出来るイベント等を数多く作ること。学校等と住民の交流の場を多く作ること ・ 与那原町に予算を下ろしてもらおう(福祉) ・ 社協が地域の公民館で地域住民が今回のようなディスカッションができる場 ・ 行政と民間との協働の意識を高める ・ 人にやさしくする 笑えること 楽しいこと等 

テーマ2 子ども、高齢者、障がい者の地域での居場所

グループ	10年後にどうなっていたいか	どのような取り組みがあるとよいか
4グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10年後も働いていたか? ・ 外で遊ぶ子どもの姿があったらいい ・ だれでも顔がわかり名前呼びあう仲であつたらいいな! ・ 障がい者の方と普通に交流している場であつてほしい ・ 健康に気をつけて長生したい ・ 公園で子ども、高齢者、障がい者がいっしょに遊べる(すごせる) ・ 子育てで悩んでいるお母さんのアドバイスを解決できるような居場所であると良いな 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供の居場所づくりとして大きな建物の中に運動できる場所、又は音楽の好きな子はギター、三線、太古等の設備が欲しい ・ 老人会のイベントがあつた時、自宅までタクシー(無料)か又は社協の送迎して欲しい ・ 三世代所帯があれば子どもの教育にも良い ・ 検診をうける様にする ・ 町内ウォーキング大会、ウォークラリー ・ 校庭の環境作り参加隊(花の植え付け等) ・ ふれあいの場所の会を多く作る ・ それぞれのスペシャリストから習う

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 笑顔のたえない声かけ合う仲であると良い ・ 高齢者が地域の学校(保育所)に出入し子どもと交流できる ・ 地域の子どもが年齢関係なくなかよしであってほしい ・ 手作りおもちゃがつくれると良いな! ・ 子どもの笑い声がほしい ・ 昔のように隣近所のお年よりが縁側で話し合っている風景が見たい ・ 昔あそびを一緒に楽しんでいたら良いな! ・ 年間行事でいろんな事に参加できる様になっている ・ 地域の行事に参加し、ほこりにできる地域 ・ お互いを思いやれるすてきな心育ての居場所があれば良いな! 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の集う場所と子ども達の遊び場が同じ場所にあるとお互いのふれあいになる ・ 高齢者が(授業、放課後)で(昔のこと、地域)のことを教える先生(地域先生) ・ 昔行われていた学児奨励会を区で実施して欲しい ・ ユニバーサルデザインの遊具、公園 ・ 参加型授業参観(体育の授業で交流)給食付 
8グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気な子供達が多くいてほしい ・ 地域などの枠にとらわれない交流 ・ 公民館がいつでも気安く使用可能 ・ 人口減少により保育園と高齢者施設が合併された施設が増える ・ 子供達とすぐにあいさつができる地域でありたい ・ 児童館を各区が建設 ・ 区民の方が皆集まって元気で楽しく生活したい ・ 帰化要件緩和による人口増加 ・ 3世代が同時に同場所での集いのできる場所 ・ まず地域に住んでいる方を知りたい ・ 高齢者を支えるシステムの確立 ・ 障害者の実態把握の方法 ・ 学校との連携を密に ・ 子供食堂との違い 職員との情報交換 ・ 10年プロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ VRがより開発されリアルでの交流は減るがメタバースでの交流が盛んになる ・ 高齢者と乳幼児が一緒にいる日常 ・ 多文化あふれる地域 ・ 10年かけて形になるものを作る(家をカラーリングとか) ・ 地域行事に多くの参加できれば世代間交流ができて良い ・ 地域の事業を全世帯に告げる 参加を求める ・ ユイマールの復活を ・ 子供会をいろんな機会に開催する ・ 子育て支援センターとミニデイ交流 

テーマ 4 日常の防災・防犯対策や災害が起きた際のこと

グループ	10年後にどうなっていたいか	どのような取り組みがあるとよいか
6グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災防犯災害の話し合いを交し安心して避難出来るようになる ・ とおり近所にだれが住んでいるかはあく ・ 自分でも動けるような状態であること ・ 小グループをつくり、それをまとめる中グループ、全体をまとめる大グループができていく ・ 小グループを4-5人くらいで組織化しておく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都合におつての避難場所も話しあっておく ・ 避難訓練が定期的に必要 ・ 大事なもの 保険証とか通帳は身近におく ・ 災害時に必要な物を身近におく 非常食 ケガした時に応急処置が出来るようなもの ・ 様々な訓練を取り組んでいく。慣れるではなくて、当たり前と思って経験しておく

<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に連絡がとれるようにグループをつくる ・ 人とのつながりをしっかりとしておく(最低限グループ単位だけでも) ・ 誘導される立場になっていると思うので安心して誘導されたい ・ 避難している人の可否が分かるシステムが開発されている ・ 日頃から準備や点検などできていること ・ 様々な訓練を経験することや災害などの情報を見て聴いて学ぶ ・ 避難場所の確保 ・ 具体的な避難できていること。仕組みづくり ・ 老人及び障害者の避難時に困らないようにしたい ・ 連絡がすぐにとれなくても町内であればどこに避難するかを決める 3カ所くらい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡を密にする ・ 地域で避難訓練(少人数) ・ 非常時にむけて炊き出し訓練 ・ 火災報知器が各家庭に設置 ・ グループの責任者を形成していく(4-5人) ・ 高台に逃げにくい人を集めておく、取り組む ・ その場で対応する訓練を経験しておく ・ 日頃から家族で話し合いが必要 ・ 話し合いをして必要なことを決めておく 必要なら追加しておく ・ 水再利用、電気、発電、充電、蓄電を形成 食料 3~7日分備蓄する ・ 足が悪い人のためにリヤカーを準備しておく ・ 高台に備蓄施設をつくっておく ・ 1回目の災害が大きい場所もあることを理解しておく 学ぶ必要がある
---	---



テーマ 5 既存の活動・行事の継続

グループ	10年後にどうなっていたいか	どのような取り組みがあるとよいか
5グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民の自治会加入率を50%にする ・ 10年後、年をとっていても元気なこと ・ 人づきあいに興味がある人が多い地域にする ・ 自治会の加入率が高ければ地域住民の交流も増える ・ 各種団体の復活、子供会、小中 PTA 支部、女性会、成人会 ・ 貧困をなくす まずは子供から ・ 住民と企業が行事へ参加している ・ 区長、自治会長の給与アップ、魅力ある役職にしてほしい ・ ゴミひとつ落ちていない地域にしたい ・ 公民館活動の活性化、利用度のアップ、三線、書道、夏休みの宿題の手伝い、居場所作り ・ 交通見守り隊 参加人数の増加 ・ エイサー、夏まつり、餅つき大会等で老若男女が笑顔になれる行事をやりたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 婦人会の復活、子供会 ・ 青年会の結成 子供会の結成 婦人会の結成 ・ 地域の企業へ活動協力していただく ・ 各公民館で子どもが喜ぶ行事を行う ・ 企業へ場所の提供を依頼する ・ 子供達が楽しく遊べる公園にしてほしい 遊具の充実化



参加者の感想

ワーク後、3名の参加者より感想をいただきました。



地域に子ども、高齢者、障がい者が集まる場所があれば、もっと素晴らしい地域になり、みんなが笑顔で幸せな与那原町になると思います。

△上原人江さん

コロナで親戚付き合いや友達とのつながりが薄くなるなども続いている。地域でのつながり、交流の機会を増やすことについて話せました。



△真栄平 義己さん



わからない点は聞きながら、グループのみなさんとたくさん話し合うことができました。勉強になりました。

△喜舎場 兼生さん

第3回ワークショップ開催します！

第1回、2回ご参加の方も、第3回からご参加の方も、様々なご意見お待ちしております！

- ・日 時 2月7日（水）18:00-21:00
- ・場 所 上の森かなちホール
- ・テーマ ライフステージに応じた地域参加のカタチを考えよう
- ・プログラム
18:00-19:50 ワークショップ
20:00-21:00 懇親会

アンケートより

第2回ワークショップの参加者アンケートから、回答の一部をご紹介します。様々な感想、ご意見ありがとうございました。

○参加しての感想

(満足度の理由・参加しての気づきより)

- ・ 将来(10年後)の夢を地域のみなさまと語り合えたのは楽しいひとときでした。
- ・ 人口が減っていくなかで、地域コミュニティをどう維持するかはとても難しい問題である。やらないことをどう考えるかも大事。
- ・ 地域の活動内容、困り事などの意見がきけた。
- ・ 皆さん10年後も今と同じかわからない厳しい時代にあるのかと感じた。
- ・ それぞれの立場で多様な意見が聞けた。
- ・ 将来の事を考えるきっかけになったのでよかったです。
- ・ もっと柔軟に企業体も職員が地域活動できる体制づくりが必要だと感じさせられました。
- ・ 高校生(知念高校)中学生(与那原中)小学生にやってみると、もっと固定概念のない夢が語られるのではないかと思います。

○運営・改善へのご意見

- ・ 他のグループメンバーの意見交換ができるよう時間をつくってほしい。メンバー交代など
- ・ これらをまとめたのを形成して、役場や社協を通して取り組みやすいようにできてほしい
- ・ それぞれが所属する立場から多様な意見が活かされた福祉計画ができたと思います。



発 行：社会福祉法人 与那原町社会福祉協議会
 発行日：2024年2月7日
 問い合わせ先：電話 098-945-3016 / FAX 098-946-7970
 作成・編集：NPO法人まちなか研究所わくわく



与那原町社会福祉協議会 第3次地域福祉活動計画策定

みんなで地域活動を考えるワークショップ

通信 3

～地域のきずな つながりのある福祉のまち～

発行：社会福祉法人 与那原町社会福祉協議会 発行日：2024年2月22日



第3次地域福祉活動計画策定に向けて

与那原町社会福祉協議会では、「第3次地域福祉活動計画」策定に取り組んでいます。その一環として、住民の皆さまと福祉活動を行う皆さまの様々な視点を計画に反映するため、全3回のワークショップを実施しており、1月10日(水)に第1回、1月29日(月)に第2回、2月7日(水)に第3回を開催しました。

世代に応じた地域参加の形を考える

最終回となる第3回は、34名の方に参加いただき、6グループに分かれスタートしました。第2回ワークショップのふりかえりを行い、グループでの近況報告をした後、「世代に応じた地域参加の形」について意見を出し合いました。グループワーク後は、出された意見を全体で発表し、今後の与那

第3回 概要&プログラム

日時:2024年2月7日(水)18:00-21:00

場所:上の森かなちホール

参加者:34名

- 18:05 オリエンテーション・第2回ふりかえり
- 18:15 グループ内近況報告・自己紹介
- 18:25 意見交換
「世代に応じた地域参加の形」
- 19:20 各グループで話し合ったことを発表
- 20:00 ワークショップ終了・懇親会
- 21:00 全プログラム終了

原町に「あったらいいね!」と思う取り組みを共有しました。ワークショップ終了後は懇親会を行い、地域住民や福祉事業者が交流する場となりました。(出された意見は次頁から!)

第1回 1月10日(水)

地域の困りごとと頑張り
を共有

第2回 1月29日(月)

将来の夢を語る

第3回 2月7日(水)

ライフステージに応じた
地域参加のカタチを考える第3次 地域
福祉活動計
画策定へ

各世代の「今ある参加の形」と「あったらいいねの参加の形」

参加者は6グループに分かれ、世代に応じた地域参加の形として、「今ある参加の形」と「あったらいいねと考える参加の形」について話し合いました。世代は、以下の7つの世代に分けて、付箋紙に書き出し、共有しました。


世代:未就学児 / 小中高生 / 20代30代 / 40代50代 / 60～75歳 / 75歳～ / 世代問わず
以下、世代ごとに付箋紙の内容を記載。グループ編成により、3グループはありません。

世代 未就学児


グループ	今ある参加の形	あったらいいねの参加の形
1グループ		<ul style="list-style-type: none"> ・ おゆうぎの発表会 ・ 地域の子育て支援
2グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ とよりの保育所の子供たちが散歩へ出かける時声かけしている ・ 保育児と老人会の交流 ・ 子供祭の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所と地域の方々と交流があるといいですね ・ 読み聞かせ 絵本 ・ 保育所休みの時の世話
4グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 与那原祭りに参加(踊り)ダンス ・ 保育園の児童と老人会の交流 ・ 交通安全教室 ・ 保育園、幼稚園、小学校との交流 ・ 読み聞かせ ・ 子育て支援センター(ひだまり、うみそら) ・ 子育て相談会 ・ つながり広場 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手作りおもちゃ作り ・ 朝ごはんを皆(地域)で食べる 
5グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休みのラジオ体操 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親の子育て相談やおしゃべり
6グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラジオ体操 ・ 地域行事の時保育園の子供達のおゆうぎを披露する ・ 子育て支援センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝起き会 ラジオ体操の習慣 ・ 赤ちゃんだっこ体験 赤ちゃんふれあい
7グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ こいのぼり ・ いも掘り大会 ・ ファミサポ ・ 読み聞かせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の読み聞かせ

世代 小中高生


グループ	今ある参加の形	あったらいいねの参加の形
1グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の交通安全立哨 ・ 与東小 放課後支援 きら☆きりり ・ 支部の子ども会(つきしろ) ・ 小中学校 PTA 活動 ・ 朝の交通安全 ・ ラジオ体操 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後の子どもの居場所 ・ 自治会に夏休みにラジオ体操があればいいなあ ・ 学生による発表会 ・ 農園・畑(つきしろ) ・ (地域での)塾 ・ 学生の地域散歩 あいさつしながら

2グループ	<ul style="list-style-type: none"> PTA 祭 スクールガードの実施（交通安全・あいさつ） 民生委員として小学校の参観日に行く 8・第3（土）の集まり 知念高校の8月の第3（土）にOB会がある（年に） 	<ul style="list-style-type: none"> 子供会活動を活発にできたらいいなあ 子供との会合があればいい 子供祭りの実施 
4グループ	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動 声かけ運動 夏休み中ラジオ体操 子ども食堂（与原） 夏休みにラジオ体操があります 地域のPTA（イベント） PTA 活動 職場体験インターンシップ 小中校生、大人の三味線教室の参加 	<ul style="list-style-type: none"> 小学6年生は運動会でエイサーをやっているのその後青年会と一緒に続けたいと思います 綱作りにもっと子ども達が参加してほしい 子ども会を作ってほしい 学用品のお下がり会（公民館） スクールバス カヤックや手作りイカダ等で親子で参加
5グループ	<ul style="list-style-type: none"> 子供会 学校ボランティア 学習支援 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども食堂
6グループ	<ul style="list-style-type: none"> お仕事体験 地域での子供会 クリスマス会 	<ul style="list-style-type: none"> 学事しようれい会 平和について講話とか活動 あいさつが積極的にできたらいいね 夏休み勉強会（宿題仕上げ） 区の図書館（本の貸し出し）
7グループ	<ul style="list-style-type: none"> 子供会でのエイサー練習 上与那原 PTA 支部で子供会がある 行事前の草刈り ミシンを習う 放課後の遊べる場所 	<ul style="list-style-type: none"> ラジオ体操 夏休みだけでなく春休みなどに行う 親子で料理教室 室内ゲームを共に おじお婆の授業参観

世代 20代 30代

グループ	今ある参加の形	あったらいいねの参加の形
1グループ	<ul style="list-style-type: none"> 青年会 つな担ぎ 支部の子ども会（保護者） 	
2グループ	<ul style="list-style-type: none"> 青年会活動 	<ul style="list-style-type: none"> 青年会活動 青年期のエイサー祭り 各区に青年会があったら・・・ ダンス大会
4グループ	<ul style="list-style-type: none"> 陸上競技の年齢別リレー 青年会があります 青年会のエイサーがあります 	<ul style="list-style-type: none"> サンライズヨガ 区の行事で声かけしても参加しないので是非参加してほしい（20～50代） 小中学生への部活動（道場やぶり）対戦大会

資料 3


5グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ大会 ・ 地域の祭りへの参加 ・ 自治会の忘年会 納涼祭 新年会 綱づくり 13 祝 区内清掃 ・ ママ友 パパ友の集まり (サークル、公園) ・ 陸上大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年会 
6グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ お仕事の楽しさ やりがい ・ PTA 参加 ・ つなづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年会イベント 各行政区で ・ 若い人達の集まり ・ 青年会活動 イベント
7グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 与那原綱づくり参加 ・ 商工会青年部のクリーンアップ事業 ・ 与那原まつりのバイト募集 	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA 活動など役員のなり手? (老人会との交流がなくなった) ・ (無料) バスケット教室

世代 40代 50代


グループ	今ある参加の形	あったらいいねの参加の形
1グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツクラブコーチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しいしくみの支部 まつり 運動会 ・ おやじ会 ・ ママトモ会 ・ PTA と老人会の関わり合いを持ってたらいいけど ・ 自治会に PTA と老人会で勉強会やバーベキューが出来ればよいが ・ 老人会と若い世代交流 バザー 手作り料理作り 世代を超えて
2グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評議員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成人会の結成
4グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会見学に参加 ・ 先月行われた町主催の盛年ソフトボール大会 30代 (5名)、40代 (2名)、50代以上等々 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月に1回~PTA の交流
5グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ テクテクウォーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 婦人会 20代~60代 ・ 盛年のスポーツ大会等
6グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の状況を聞く 先のお話 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若いときの失敗や成功 お話を聞く ・ 20年後くらいの体験ができる 将来のことを考えるため
7グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ つなひき 六尺 ・ 地域清掃 ・ 学校行事参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 綱づくり参加者 ・ 三世代スポーツ大会 (特に子育て世代)

世代 60~75歳

グループ	今ある参加の形	あったらいいねの参加の形
1グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミニデイ・健康教室 ・ 老人会 ・ サークル活動 フラダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区のクラブ活動


4グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミニデイ参加出席 ・ 公民館での婦人会 老人会のカラオケ ・ 老人会があります ・ 与那原大綱曳きの綱作りが各区であります ・ 老人会 評議員会等視察研修 ・ 女性会 ・ 区の清掃 ・ サークルがある 	
5グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全見守り ・ 老人クラブ ・ ひまわり会 ・ カラオケ大会 芸能発表 ・ 県長寿大学（かりゆし大学）同期会 絆の会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由に使える畑 ・ 公務員 OB の方々が地域活動に参加して地域活動盛り上げて ・ 世代間交流
6グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老人会への参加（加入） ・ 町主催のイベント（有料）への参加 ・ ボウリング大会 ・ ミニデイ ・ ミニデイ 地域 ・ ピクニック 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てで良かったこと、やっておけばよかったこと 孫のお世話の大変さ ・ 定年後の生活の様子 心配ごとをお話する ・ カルチャー（地域）スクール 地域の先生が教える ・ 自由に移動出来る手段
7グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区事務所で民舞のグループ ・ グランドゴルフ G 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流会があってほしい ・ 子供の一時預かり（買物の間等） ・ 社協で女子の制服の無料配付（？）をしている。もっと広く各地で（フリーマーケット）



世代 75歳～

グループ	今ある参加の形	あったらいいねの参加の形
1グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆんたく会（ゆんたくサロン） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団らん室でラジオ体操をやってくれないかな
2グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老人会の社会奉仕活動 ・ 地域の担い手としての活動（老人会） ・ 区のミニデイ ・ 料理講習会 ・ 夏休みのラジオ体操への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老人会と子どもたちの交流があるといいなあー 
5グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣近所でのラジオ体操 ・ ゆんたく会 ・ シニアの集い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見守り活動 ・ 買い物手伝い
6グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 残りの時間どうすごしていくかお話を聞く話す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護の体験実習 ・ バス利用者のためのイス、日かげがあったらよいね ・ 郷土料理を教えてもらいたい
7グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ すべての高齢者がミニデイに参加して欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老人クラブ ミニデイ お知らせを配付するときできるだけ面談

7グループ		<ul style="list-style-type: none"> ・ 与那原⇄那覇に路面電車を LRT ・ 地域雇用を産み出す為にも与那原テック的な ・ 公民館 寺子屋開催 ・ 子供達も放課後習い事があるので老人会との交流がなくなったのは残念（計画しても集まらなくなった） ・ まちャーぐわー（駄菓子、ぜんざい）
-------	---	---

世代 世代問わず

グループ	今ある参加の形	あったらいいねの参加の形
1グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新年会 忘年会 ・ 地域清掃 全世代交流のキッカケ ・ 自治会で月2回区内の清掃活動をしている ・ 支部のくさかり ・ 新年会 忘年会 バーベキュー ・ 社協さんがやっている生活困窮者への支援が継続している ・ 月1回クリーン作業参加者をふやす ・ 地域の美化活動（草刈作業） ・ 町ふくしまつり ・ バザー・地域のまつり（つきしろ） ・ 自治会で綱つくりに住民総出で参加出来ればよいのだが ・ 与那原町大綱曳 綱作りから綱曳きまで 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会 ・ 朝起き、ラジオ体操 全世代参加 ・ 与那原祭りの前モーイ 多くの住民が参加 盛り上げたい ・ 自治会に関係なく綱つくりに参加出来る方法がないものか 
2グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1.ミニデー 2.毎週土曜日清掃 3.アルミ缶集め 4.新年会 ・ 区のハーレー行事 ・ ミニデイ参加 ・ 区の子供祭りの行事 ・ 区のグランドゴルフ大会 ・ 区の綱引き 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1.PTA 2.婦人会 ・ 町民大運動会の実施 ・ 交通安全立哨活動 ・ 民舞教室 ・ 学校 先生の講演 現場の悩み
4グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ フードバンク ・ 清掃クリーン作戦 ・ 与那古浜公園での朝のラジオ体操 夏休み期間中、子供達も父兄同伴で参加している ・ ゴミ拾いウォークラリー ・ 交通安全指導員による通学児童生徒に対するあいさつ又は通行車両の運転手に対するあいさつ励行 ・ 津波避難訓練に子供からお年寄りまで参加 ・ 通りのプランター管理 ・ 上与那原つなひき ・ 三世代のグランドゴルフ大会等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大通りに木があってほしい ・ 大きな公園 ・ 浜田区内には1件の店もなく不自由を感じている。昔のマチャーグワーがあって欲しい ・ クリーン作戦大会 4名1組でゴミをひろい、その種類や量で順位を決める ・ 親子もちつき大会 ・ 手作りたこあげ大会 ・ 世代をつなぐ駅伝 ・ 学年奨励会があって欲しいと思う ・ 大バーベキュー大会 ・ 手作りバザー

4グループ	<ul style="list-style-type: none"> 立哨 動物譲渡会 バザー 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者を派遣して各公民館活動がもっと活発にしてほしい 大エイサー 道ジュネー祭り ウォークラリー与那原の地域巡り トリムマラソン 科学実験大会
5グループ	<ul style="list-style-type: none"> 公民館活動 区の自治会 自治会 十五夜まつり 	<ul style="list-style-type: none"> いろんな活動の発表の場 フリーマーケット 全世代共同売店（市場） 子供達と老人会のふれあいがあって欲しい 買い物に行く送迎バスがあって欲しい 現在の町内バス不便 自治会で気軽に参加出来る雰囲気作りをして欲しい。世代間交流 町民運動会
6グループ	<ul style="list-style-type: none"> 年1回の避難訓練の参加 未就学児・小中高生・区民 運動会への参加 与那原大綱曳まつり 区の夏祭り スポーツイベント 与那原祭りに参加 CGC 活動 	<ul style="list-style-type: none"> 上の世代と異年齢交流 スタンプラリー 楽しく参加のため 町民運動会の開催 
7グループ	<ul style="list-style-type: none"> 区域の清掃活動 バスツアーの実施 	<ul style="list-style-type: none"> （隣近所間の交流）迷惑でも会いに行ける関係づくり イノーあそび（釣り） 与那古浜公園バスケットコートに照明を！暗いコートでボール投げしている カワイソー 火の用心 公民館でのカラオケ大会

各グループの発表

グループワーク後、「あったらいいね！」と思う参加の形を各グループで3つ発表いただきました。

1グループ（発表 富田 琢磨 さん）



- 40、50代のオヤジ会、ママトモ会。交流を深めるために親睦飲み会。

- PTA世代と、老人会世代の皆さんが交流できる仕組みがつけ

れたらいい。勉強会、BBQ、バザーなど。

・今ある与那原綱曳きを活用して、より自治会活動に参加できる、入ってくれるような何かがないか。

2グループ（発表 照屋 勤さん）



- 保育所の休みの時に子どもの世話を隣でやってくれたら。

- ダンス大会があったらいい。

20、30代、小学生、子どもが好きなもの。

- PTA、女性会が復活してくれたら。

4グループ（発表 羽根田 幸江 さん）

- 子育て世代の方達に、各公民館で学用品を持ち寄って学用品お下がり、リサイクル。

- 20、30代をターゲットにした部活動道場破り。



体育館でやっているサークルの皆さんに、中学生の大会前に道場破りをしてほしい。

・全世代は、大BBQ大会。皆で持ち寄って、色んな楽しみができるのでは。

5グループ（発表 真栄平 義己 さん）

・フリーマーケット。全世代でできる共同売店があるといい。

・世代間交流は難しくなってきたけれど、本当はどこに地域の子がいて、得意なことがわかるといい。綱曳きでも、そこに至るプロセスの中で交流がたくさんできることが大事。

・公務員 OBの方が、地域活動にもっと参加して、地域活動を盛り上げて欲しい。



6グループ（発表 桑江 良博 さん）



・一人一人が何かの先生みたいな形で、物事を教えていくカルチャースクール。教えてもらった人が次の先生になることを繰り返して、色んな意味で体験、経験を教えるというのを伝えていく。

・自由に移動できるというような。タクシーよりもバスよりも、かゆいところに手が届くしくみ。

・郷土料理を教えてもらいたい。廃れていかなないように、いいものはいいと伝えられたら。

7グループ（発表 井村 真帆 さん）

・地域雇用を生み出す与那原テック的な何かをつくる。40代、働き盛りが来られないのは、仕事をしているから。仕事を生み出せば来てくれる。



・例えば東京ディズニーランドのような、住んでいる住民は無料とやると、全年齢層が集まる場になるのでは。

・小規模で自分の地域の子どもを自分でみる。公民館等を利用した寺子屋を開催してはどうか。

アンケートより

第3回ワークショップの参加者アンケートから、回答の一部をご紹介します。

〇参加しての感想

（満足度の理由・参加しての気づきより）

- ・ 世代間で困りごとが違うので、アイデアも変わり、自分にはない考えを知れるので楽しかったです。学び深い時間になりました。
- ・ まず、できることをトライすることが大切だと思います。「あったらいいよね」の他人事ではなく、それを実現するためにはどうしたらいいのかと私事として構築していくことが大事なんだと思います。このワークショップに参加した私を含める方が、まず自分のできることの一步を歩み始めることができたと思います

〇運営・改善へのご意見

- ・ 町の社会活動の課題や問題点を集約して話し合いを進めてもよいのでは…
- ・ 参加者との情報交換があっても良いのではと思った。話して色々参考になる事がある。

全3回お疲れさまでした！

全3回のワークショップを通して、世代間交流や趣味活動の活用、様々な機会づくり、場所の活用など、様々な視点とご意見をいただきました。

皆さまのご意見を受け止め、ご協力頂きながら、第3次地域福祉活動計画の策定に取り組んでいきます。今後ともよろしくお祈いします。

発行：社会福祉法人 与那原町社会福祉協議会

発行日：2024年2月22日

問い合わせ先：電話 098-945-3016 / FAX 098-946-7970

作成・編集：NPO 法人まちなか研究所わくわく



社会福祉法人 与那原町社会福祉協議会
第3次与那原町地域福祉活動計画策定要綱

1 目的

この要綱は、与那原町社会福祉協議会が「第3次与那原町地域福祉活動計画」（以下、「第3次活動計画」という。）を策定するのに必要な事項を定めるものである。

2 計画の必要性

与那原町社会福祉協議会では、平成30年度に5年計画で「誰もが安心して快適に暮らせるまち 次世代につなげる心豊かなまち」の理念のもと第2次与那原町地域福祉活動計画を策定し、地域住民や関係機関・団体との協働・連携を図りながら、地域社会の福祉課題を自助・共助・公助の視点から解決に向け取り組んできた。

第3次活動計画は、これまでの取り組みを踏まえ、地域福祉活動や在宅サービス並びに福祉教育を強化するとともに、社協の運営・基盤強化を図るために策定する。

3 実施主体

社会福祉法人 与那原町社会福祉協議会

4 策定の方法

第3次活動計画の策定は、与那原町が策定する総合計画や福祉保健関連計画等の基本理念や目指す将来像等を共有し、整合性を図るよう連携しながら策定するものとする。

5 策定委員会の設置

第3次活動計画を策定するため、別紙要綱により第3次与那原町地域福祉活動計画策定委員会を設置する。

6 策定期間

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

社会福祉法人 与那原町社会福祉協議会
第3次与那原町地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(目的及び設置)

第1条 この要綱は、与那原町に暮らす誰もが住みなれた地域の中で、安心して快適に暮らせるよう、与那原町社会福祉協議会（以下「本会」という。）が、さまざまな福祉活動を行う地域住民や関係団体と連携して第3次地域福祉活動計画を策定することを目的として設置する。

(名称)

第2条 この委員会は、第3次与那原町地域福祉活動計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）と称する。

(委員)

第3条 策定委員会は、10名以内の委員で組織し、次に掲げる者の内から本会会長が委嘱する。

1. 学識経験者
2. 保健・医療・福祉関係者
3. 行政職員
4. ボランティア
5. その他会長が必要と認める者

(任務)

第4条 策定委員会は、本会会長から諮問された次に掲げる事項を調査、審議する。

- (1) 第3次地域福祉活動計画策定に必要な実態やニーズの把握、問題、課題の整理及び分析に関すること。
- (2) 第3次地域福祉活動計画（案）の策定に関すること。
- (3) その他、策定委員会において必要と認めた事項に関すること。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は委嘱した日から答申提出の日までとする。

(委員長及び副委員長)

第6条 この委員会に次の役員を置く。

委員長1名 副委員長1名

- 2 委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。

(職務)

第7条 委員長は、この委員会を代表し、会務を統括する。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(会議)

第8条 委員会は委員長が召集し、会議の議長となる。

- 2 策定委員会は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 策定委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(意見の聴取)

第9条 委員会は、必要があると認めたときは、委員以外の者を会議に出席させて説明を求め、または意見を聴くことができる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、本会において処理する。

(その他)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要なことは、本会会長が別に定める。

附則

- 1 この要綱は、令和5年7月1日から施行する。
- 2 最初に召集される策定委員会は、第8条の規定にかかわらず本会会長が招集する。

*策定委員

- | | | |
|-----|---------|--------------------|
| (1) | 當 山 健 | 町社協副会長 |
| (2) | 宮 平 律 子 | 町福祉課長 |
| (3) | 新 里 健 | 町子育て支援課長 |
| (4) | 徳 村 政 福 | 町老人クラブ連合会会長 |
| (5) | 石 川 健 一 | 町民生委員児童委員協議会会長 |
| (6) | 新 垣 智 弥 | 町区長会会長 |
| (7) | 仲宗根 岩 雄 | ワークセンター愛の園施設長 |
| (8) | 山 内 良 章 | 学識経験者 (県共同募金会常務理事) |
| (9) | 渡名喜 元 | 学識経験者 (前社協事務局長) |

第3次 与那原町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定スケジュール

令和5年8月～令和6年3月				
	第1回策定委員会 (9/8)	第2回策定委員会 (2/26)	第3回策定委員会 (3/14)	第4回策定委員会 (3/25)
策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> 委員の委嘱並びに委員長・副委員長の選出 社協会長からの諮問 今後のスケジュールについて 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査報告並び講演会及びワークショップ開催状況の報告について 活動計画（素案）の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画（案）の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画（案）最終検討、承認 社協会長への答申
事務局・作業部会	<ul style="list-style-type: none"> 策定委員人選、委嘱関係資料作成 各種要綱の作成（活動計画策定要綱・策定委員会設置要綱・調査実施要綱等） 「地域・関係団体」「福祉施設・事業所等」向け調査票（アンケート）作成・配付・回収（令和5年9月～10月） 地域福祉活動計画周知・啓発の講演会開催（令和5年12月18日） 地域のニーズ調査（ワークショップの開催） 令和6年1月10日、29日、2月7日 第3次活動計画（素案）作成・検討 			

与社協第215号
令和5年9月8日

第3次地域福祉活動計画
策定委員会委員長 殿

社会福祉法人
与那原町社会福祉協議会
会長 糸 数 元

第3次 与那原町社会福祉協議会地域福祉活動計画（案）
の策定について（諮問）

与那原町社会福祉協議会は、社会福祉法第109条の地域福祉を推進する団体として位置づけられており、その使命・役割は「住民主体」の原則を基に地域の生活課題を発掘・共有化し、その課題解決を住民と共に図っていくことにあります。

地域住民による福祉活動は、第2次与那原町社協地域福祉活動計画に沿い、推進してきておりますが、地域福祉を取り巻く状況は刻一刻と変化し、福祉ニーズはさらに多様化しております。

つきまして、与那原町の地域福祉活動のさらなる発展、与那原町の地域福祉課題の解決のため、第3次与那原町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定について諮問いたしますので、貴委員会にてご協議いただきますようお願い申し上げます。

令和 6 年 3 月 28 日

社会福祉法人
与那原町社会福祉協議会
会長 糸 数 元 殿

第 3 次与那原町社会福祉協議会
地域福祉活動計画策定委員会
委員長 山 内 良 章
(公 印 省 略)

第 3 次 与那原町社会福祉協議会地域福祉活動計画（案）
の策定について（答申）

令和 5 年 9 月 8 日付け与社協第 2 1 5 号で諮問のありました第 3 次与那原町社会福祉協議会地域福祉活動計画（案）を策定するにあたり、アンケート調査実施や講演会、ワークショップ（全 3 回）を開催するなど、地域・福祉関係団体をはじめ福祉施設・事業所と協働して、地域福祉活動計画策定に取り組んでまいりました。

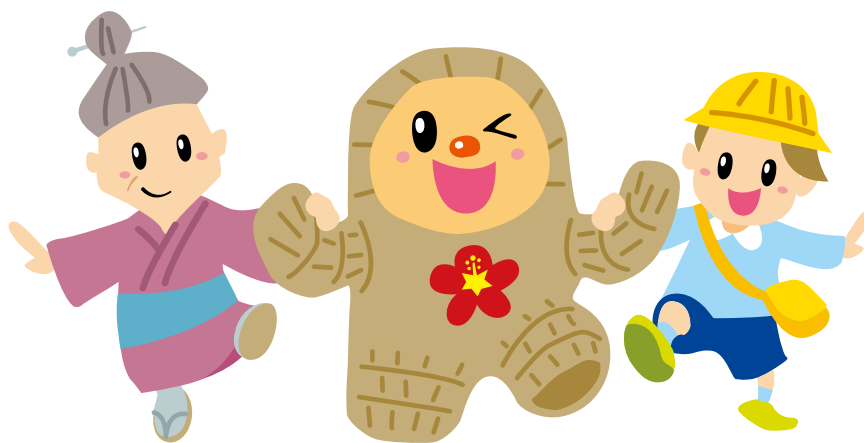
このような過程を踏まえ、策定委員会で慎重に調整・審議を重ね、今回別紙のとおり、第 3 次与那原町社会福祉協議会地域福祉活動計画（案）を策定したものです。

なお、本計画の実施については、下記のことを要望し、答申といたします。

記

1. 本計画の推進にあたり、住民をはじめ自治会や地域の関係団体、福祉サービス事業等が地域福祉の主体として相互に連携し、協働して計画を推進することが重要です。そのため、住民をはじめとした関係機関等が連携し協働しやすいネットワークを構築しながら、地域課題解決に向けた取り組みを支援すること。
2. 本計画の進行管理及び住民の福祉ニーズに即した事業・活動を図るため、必要に応じて点検し、随時見直しを行いながら、その推進に努めること。

以上



【この計画に関する問い合わせ先】

社会福祉法人 与那原町社会福祉協議会

〒901-1302 与那原町字上与那原16-2 (町社会福祉センター内)

電話 (098) **945-3016** FAX (098) **946-7970**

